



▲SDGs未来都市選定証



豊かな環境と文化を未来につなぎ、 ひと・まちが輝く持続可能な社会をつくる



亀岡市長 桂川 孝裕

市制施行65周年の節目を迎え、その歴史を振り返りますとき、先人のたゆまぬ努力と知恵があったからこそ現在があり、人と人との温かい絆が、まちと文化を形成してきたことを実感いたします。

まちや暮らしの姿が大きく変わる中で、亀岡は今まさに、新しい時代を迎えています。JR亀岡駅北側に京都府の球技専用スタジアム「サンガスタジアム by KYOCERA」がオープンし、亀岡ゆかりの戦国武将、明智光秀公が主人公となった大河ドラマ「麒麟がくる」が放送されるなど、これまで以上の大きな注目が亀岡に集まっています。

亀岡市が発信する「プラスチックごみゼロ宣言」の取り組みは、現代の生活習慣や価値観を見直し持続可能な循環社会を構築し、次代を担う子どもたちに安心して暮らすことのできる環境を引き継いでいくものとして、大きな意義があります。

また、亀岡市が提案した「『かめおか霧の芸術祭』×X持続可能性を生み出すイノベーション」が、令和2年、内閣府よりSDGs未来都市および自治体SDGsモデル事業の選定を受けました。今後、亀岡市は「霧の芸術祭」を中心とし、「世界に誇れる環境先進都市」の実現を目指したさまざまな施策を分野横断的に推進することで、地域内消費の向上や交流人口の創出などを通じた持続可能なまちづくりに挑んでまいります。

私たちのまち亀岡の新時代のページを、市民の皆様とともに開いてまいりたいと思います。そして、その一つ一つの場面は、これからの社会を構築する糧として、亀岡の長い歴史を物語る中で、ひときわ明るい光を放つものであることを確信しております。

亀岡市は、昭和30（1955）年、1町15カ村の合併により誕生し、令和2（2020）年には市制施行65周年を迎えました。

四季折々の表情を織り成す自然と悠久の歴史の中で発展を重ねてきた本市は、社会インフラの拡充とともに成熟した地域社会を構築し、今、新たな時代を迎えています。

そして、未来のために地球環境を守り、美しいふるさとを受け継いでいくためのまちづくりと、一人ひとりが多様な価値観を認め合い、「まち」「ひと」の観点から持続可能な社会を創り上げることが重要と考えています。

「亀岡らしさ」とは、豊かな自然環境と共存し、その恵みに囲まれた中で、シビックプライドを持っていきいきと暮らすこと。市民の皆さまとともに未来への扉を開き「亀岡新時代」の歩みを進めてまいります。

まちひと未来 亀岡新時代

INDEX	
まちひと未来 亀岡新時代	
世界に誇れる環境先進都市へ共生、そして平和未来を、描く	4
自然と、ともにある文化アクティブ&スローライフ・トカナカの可能性育ちと、学び	12
亀岡千年	14
亀岡を、めぐる	16
自然の力と技 亀岡を味わう	18
四季の表情と里山の恵み	22
安全・安心のまちづくり	24
亀岡の65年	26
古より受け継がれる伝統と文化	28
現在を感じ、絆を深める文化	30
亀岡市の概要	36
	37
	38

世界に誇れる 環境先進都市へ

亀岡市は、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む「世界に誇れる環境先進都市」の実現を目指し、さまざまな取り組みを進めています。



プラスチックごみゼロ宣言

プラスチックと社会

プラスチックは、生産が本格化した1950年代以降、私たちの生活の中で普及してきました。軽量で加工しやすく大量生産に適したプラスチックは優れた実用性があるため、さまざまな産業分野に革命をもたらし、生活の利便性を向上させてきました。

現在、世界中で生産されるプラスチックのうち、特に食品の梱包、包装に使われるプラスチックは、衛生面の向上に貢献するものです。しかし、使い捨てが前提のプラスチックは、残念なことにポイ捨てされることも多い上に、汚れているなどの理由でリサイクルも難しく、焼却処分をすればCO₂(二酸化炭素)が発生するなど、環境そのものを汚染する一因となっています。

亀岡から広がる、環境保全の輪

平成16(2004)年、亀岡の主要な観光事業である保津川下りの船頭たちが、保津川渓谷の自然景観に影響を与えるペットボトルやレジ袋、発泡スチロールなど、流域に漂着するプラスチックごみとのたたかいに挑んだところから「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に至る流れはスタートします。平成19(2007)年3月には、保津川遊船企業組合の中にエコグリーン対策委員会が誕生し、組織的な清掃活動が実施されるようになりました。そして同じころ、保津川流域の環境保全に取り組む「特定非営利活動法人プロジェクト保津川」が誕生。月1回行われる保津川クリーン作戦など、流域の関係者とのネットワークは大きく広がり、その認知度は淀川流域、さらには国内外のNPOやNGOなどの関係者にまで広がっています。

こうした取り組みに関係団体、行政が賛同し平成24(2012)年、内陸部の自治体で初開催となる「海ごみサミット2012」を開催。「亀岡保津川宣言」「川のごみや海のごみをとにも考える京都流域宣言」を採択し、内陸部におけるプラスチックごみ発生抑制の取り組みや社会のルールづくり、そして川の流れのように全国につながる大きな潮流を創り上げていく想いを参加者全員が共有しました。平成25年には、サミットの両宣言に賛同し、宣言の内容の具現化を目指し、保津川でつながる市民、企業、団体、大学、NPO、行政が参画する「川と海つながり共創(みんなでつくる)プロジェクト」を設立。「保津川の日」(本市最大の清掃イベント)や「こども海ごみ探偵団」(環境学習)など多くの市民、次代を担う子どもたちとともに、漂着プラスチックごみ発生抑制対策に取り組んでいます。



海をたどようプラスチックごみの問題

全世界で、これまで生産されたプラスチックの総量は83億トン、そのうち、廃棄されたものは63億トンにのぼり、リサイクルされたものはたったの9%。毎年、内陸部から800万トン以上のプラスチックごみが海に流出しているといわれています。

これらのプラスチックごみは自然に分解されることはほとんどなく、一般的なレジ袋も例外ではありません。また、プラスチックごみは紫外線や波の力で劣化し、細かくなつていきます。特に大きさが5ミリ以下となったものをマイクロプラスチックと呼びますが、その大半は陸から川を通じて海へと流出したものであることが明らかになっています。海鳥や魚にいたるまで、多くの生き物が小ささまざまなプラスチックをエサと間違えて飲み込んでしまったり、知らず知らずのうちに体内に取り込んでいることが世界各地で報告されています。また、船の航行、観光や漁業、沿岸域の居住環境など、人類の経済活動への影響が現実のものとなっています。

海洋プラスチックによる汚染は、地球規模の環境問題として対策も急速に進んでいます。平成28(2016)年5月のG7伊勢志摩サミットの首脳宣言、平成29(2017)年7月のG20ハンプルクサミットでの「海洋ごみに対するG20行動計画」立ち上げへの各国合意、平成30(2018)年6月のG7シャルボワサミットでの海洋環境の保全に関する「健全な海洋及び強靱な沿岸部コミュニティのためのシャルボワ・ブループリント」の承認、令和元(2019)年12月の国連気候変動枠組条約第25回締約国会議(COP25)など、海洋プラスチック問題の解決に向けた国際的な取り組みが進みつつあります。



Working towards solving the issue of ocean plastic waste needs to be tackled as a global initiative. Started by the boatmen of the "Hozugawa River Boat Ride", Kameoka's citizens, civic groups, and the local government have been involved in river cleaning activities including work from the Non-Profit Organization "Project Hozugawa".
In 2018, Kameoka City and the Kameoka City Council signed the "Kameoka Zero Plastic Waste Declaration" into agreement.
The City is motivated to preserve the natural environment and revitalize the local economy while also making various strides towards becoming a "World-Class Environmentally Advanced City". Such efforts include an assortment of initiatives such as the aim to get rid of all single-use plastic waste by 2030.

「KAMEOKA FLY BAG Project」エコの象徴として高く掲げられた、パラグライダー古生地がつなぎ合わされた巨大なエコバッグ



市内店舗に掲げられた、環境先進都市かめおかのシンボルマーク

そして未来のために。「プラスチックごみゼロ宣言」

こうした流れの中で、亀岡市は平成30(2018)年12月13日、亀岡市議会とともに「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。宣言では、2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロ、市民とともに自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む「世界に誇れる環境先進都市」を実現させることを目指しています。

宣言後、令和元(2019)年8月、市内での使い捨てプラスチック製レジ袋の有料化をはじめ、民間事業者との協定締結、啓発活動などを展開。市内ではレジ袋を使わない、プラスチックごみの発生を抑制する市民生活が徐々に浸透しています。そして令和2(2020)年3月、「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」が可決、令和3年1月から、日本初となるプラスチック製レジ袋提供の有償無償を問わない禁止、紙袋や生分解性(微生物によっ

て分解される)袋の有償配布禁止に踏み切りました。

これは、亀岡市から発信する、地球のために今できる第一歩としてのチャレンジです。しかしながら、プラスチック製レジ袋の提供禁止は一つの手段であって、目的ではありません。「KAMEOKA FLY BAG Project」による市民のエコバッグ使用の推進や環境先進都市かめおかのシンボルマークを活用した啓発など、今後も使い捨てプラスチックごみゼロを目指してさまざまなプロジェクトを展開してまいります。

プラスチックごみゼロを実現するためには、長期的な視野での持続可能な取り組みを続けていかななくてはなりません。そのためにも、「環境保全」と「地域の活性化」が一体となったまちづくりを進めていく必要があります。一人ひとりの意識、行動をつなげ、大きな動きを創り出すことが今、求められているのです。

かけがえのない環境のシンボル、アユモドキ

国の天然記念物に指定され、絶滅が危惧されている希少な淡水魚である「アユモドキ」。かつては、亀岡市内を流れる保津川を含む琵琶湖・淀川水系に広く分布し、身近に見ることができました。

一時的に水位が上昇し草地などが水に浸され、餌となるプランクトンが水路などを通じて田んぼから流れ出てくる環境はアユモドキの産卵・繁殖に適していますが、時代の流れとともにその環境も変化し、現在では本市と岡山県でしかその姿を見ることができなくなっています。

平成15（2003）年にアユモドキが環境省レッドデータブックの絶滅危惧ⅠA類に掲載されたことをきっかけに、本市の地元NPOがいち早く生息調査を開始。以降、地元自治会や京都府、関係機関などと連携しながらの本格的な保護活動や、生息環境の保全活動を継続して実施しています。春の訪れとともに保津川の支流を遡上し、ラバーダム（農業用取水設備）の立ち上げによってダム上流の水位が上昇すると、そこで産卵を行うアユモドキ。毎年、自力で遡上できず、ダム下流に残されたアユモドキを救出し、ダム上流に放流する活動を実施しています。また、密漁による被害を防止するため、地元自治会によるパトロールや、アユモドキを捕食する外来魚の駆除活動などを実施しています。平成29（2017）年には「市の魚」として制定し、かけがえのないふるさとの宝物を守り、育て、増やすための保護活動と、アユモドキが生息する豊かな自然環境を未来に受け継いでいくための取り組みを展開しています。

亀岡エネルギー新時代

平成30（2018）年1月、亀岡市、亀岡商工会議所および地元金融機関などの出資により設立された「亀岡ふるさとエナジー株式会社」は、市立小・中学校など市内の公共施設を中心に、年間約380万kWhの電力を供給するなど、市内で使う電力の地産地消、エネルギーの供給を通じた地域活性化と環境保全への取り組みを推進する地域新電力会社です。会社設立以降、同社が、複数の民間事業者によって共同運用される市内のメガソーラー発電所およびサンガスタジアムby KYOCERAで発電された電力の買い取りを開始。同社による電力供給量のうち、約60%を市内で発電された再生可能エネルギーで賄うことを可能にしています。また、市内公共施設の一部に災害対策および日常利用の蓄電池を設置するなど防災分野での連携にも取り組んでいます。

なお、市内で排出された下水の多くを処理する「年谷浄化センター」内に発電施設を設置、下水の処理過程で発生する消化ガスから発電するシステムを構築し、令和2（2020）年12月から稼働させることとしています。これまで未利用となっていたエネルギーを活用することにより、年間約550トンのCO₂（二酸化炭素）を削減し地球温暖化防止に貢献するほか、ここで発電する年間約132万kWhの電力を亀岡ふるさとエナジー株式会社が買い取るにより、市内メガソーラーからの電力買い取りと合わせて地産地消のエネルギー循環をさらに推進します。

これらの取り組みは、「世界に誇れる環境先進都市」の実現、地球と人にやさしいまちを目指す亀岡市のエネルギーの供給、活用の観点からの新たなチャレンジです。



街角を彩る「スポットガーデン」



下水処理による消化ガスからの発電システムを構築する年谷浄化センター



神秘的な紋様の「桜石」



アユモドキの保護活動



亀岡に生息する天然記念物「アユモドキ」（撮影 平田智法氏）

古くから知られる神秘の石、桜石

亀岡市稗田野町柿花から湯の花温泉にかけて産出する不思議な紋様の石「桜石」は、古くから世の中に知られ、江戸時代中期には全国各地の珍しい石を紹介した書物「雲根志」（木内石亭）に「桜石 丹波の国に桜花石というあり・・・」と記述されており、大正11（1922）年には稗田野町の桜天満宮境内に産出する「董靑石飯晶」（桜石）が国指定の天然記念物に指定されています。

桜石は、約9,300万年前（中生代白亜紀）に元々存在していた泥岩に地中の内部深くから上昇してきた花崗岩質マグマにより熱変成してできた董靑石の六角柱状結晶が、雲母に変質したものです。

柱状の結晶断面は、まるで桜の花が開いているように見えることで知られています。長い時間をかけて自然が作り上げたその神秘的な紋様は、太古から続く地球の鼓動を今に伝え、人々を魅了し続けています。菅原道真公ゆかりの桜の木が枯れたあと、木の下の方石に花紋が残されていたとする話（桜天満宮縁起）や、大宰府に左遷された道真公を慕う家臣が、道真公が去ったあとに庭の砂を持ち帰り、柿花の山に撒いたところ、桜石があらわれるようになったとする話（口丹波口碑集（日本伝説集）など、伝説も残されています）。

古くから広く世間に知られ、先人たちが大切に守ってきた桜石。亀岡市では、平成29（2017）年に「市の石」に制定し、今後も先人たちの意志を引き継ぎ、未来に伝えていくこととしています。

豊かな自然と景観を守り育てるまちづくり

亀岡市は、四方を山々に囲まれた盆地に保津川が流れ、清らかな美しい水と豊かな緑に恵まれた田園都市です。この素晴らしい自然環境を守り、未来に引き継いでいくことは、現代に生きる私たちの責任であり、また亀岡の地に住む者としての誇りでもあります。私たちの暮らしは、自然とともにあり、その中で紡がれてきた歴史が、亀岡の文化を形づくってきたと言っても過言ではないでしょう。現代社会では、人間が生み出した文明の影にあるさまざまな問題が、私たちに危機として降りかかろうとしています。私たちは、それを一人ひとりの問題として向き合い、乗り越え、持続可能な社会を構築していかなければならないのです。

自然を守り、美しい環境を未来に引き継いでいくことは、人にやさしく、潤いのあるまちを作ることでもあります。自然や田園などの景観の保全、歴史的な町並みや今後進み行く姿などを一体的に捉え、自然環境と私たちの暮らしが共存、共生できる景観に配慮したまちづくりが必要です。「亀岡市景観計画」は、亀岡市の資源でもあるこの豊かな自然環境を活用し、市民の皆様の景観に対する関心と市民自らが景観に対する共通認識を高めて、「住んで良かった」と思えるまちづくりを目指しています。

共生、そして平和

世界中の人が手を取りあい、共生できる社会。
そして人権や多様な価値観が尊重される社会。
市民の願いである世界恒久平和の実現につながります。

Kameoka continues to promote inter-generational and cross-border exchanges. The city progressively works towards the enhancement of foreign language guidance; as well as skill and individuality development through athletics, culture and the arts.

Kameoka is also working to enhance various support systems in order for citizens with connections to foreign countries to live in the city with a greater peace of mind.

Working to promote a society where human rights and diverse values are respected, Kameoka aims to create a harmonious environment where citizens can balance work with family responsibilities and community involvement.

As a wish for the realization of permanent world peace, in 1955 Kameoka became the first municipality in the country to be recognized as a "City of World Peace". As well, in 2010 Kameoka declared itself a "Non-Nuclear City of World Peace" with the intent of nuclear weapon abolishment.

Kameoka City supports the "World Federalist Movement" philosophy of wishing for the realization of permanent world peace.

多様な価値観が尊重される社会

グローバル化とともに、多様な背景を持った人々と価値観を包含し受容するダイバーシティ（多様性）社会が世界的な関心を集めています。国籍の壁を越え、多文化が共生する地域社会の構築とともに、性別や年齢、障がいの有無、文化的背景、性的指向、性自認などにとられることなく、一人ひとりが持つ個性や能力が尊重され、誰もが希望を持って自分らしく生き、目標に向けて挑戦し、能力を発揮し、参画・活躍できる社会を実現することが求められています。亀岡市では、21世紀を真に平和と人権の世紀とするため、人権と命を尊重する人権文化の息づくまちの実現を目指し、人権擁護委員会による活動や人権相談、街頭啓発、ヒューマンシネマやヒューマンフェスタなどの人権啓発事業を推進しています。また、亀岡市男女共同参画条例に掲げる理念のもとに、「性別にとられず、誰もが自分らしく生きられるまち亀岡」を目指し、女性の相談室の実施や男女共同参画情報紙の発行、男女共同参画講座の実施、ゆう・あいフォーラムの開催など、「ゆう・あいステッププラン」男女共同参画計画」の具体的施策を推進しています。

育児や介護など家庭や地域生活の活動との調和を図りながら実践するワーク・ライフ・バランスの確立は、現代社会において重要なことです。仕事上の責任を果たしつつ、家庭や地域生活の活動との調和を図りながら自らも豊かな生活を送ることを提唱する「亀岡市イクボス宣言」は、その実践となるものです。亀岡市は、誰もが持つ個性を互いに尊重することによって生まれる価値が社会を前進させる力となるという認識のもと、その実現のための施策に取り組んでいます。



平和祭 保津川市民花火大会



“ヒロシマ”に学ぶ平和の旅



平和祭 亀岡大踊り大会



平和祈念式典



ヒューマンフェスタ



(上段・下段)



オーストリア空手連盟との友好協定による交流



亀岡市・蘇州市スタディ・アブロードプログラム



市制60周年記念亀岡市自治振興式典



市立小学校での交流

亀岡と世界のつながり、多文化共生社会へ

グローバル化が進む国際社会では、それぞれが主体となつて役割と責任を果たし、人類の進歩と平和に進んで貢献していくことが重要です。そのためには、教育や生涯学習を通じて交流を広げ、多様な文化を認め合う心を育むことが必要です。亀岡市では、昭和39（1964）年にクニッテルフェルト市（オーストリア共和国）、昭和60（1985）年にジャンチーラ市（ブラジル連邦共和国）、同年にスタイルウォーター市（アメリカ合衆国）と姉妹都市盟約を締結、平成8（1996）年に蘇州市（中華人民共和国）と友好交流都市盟約を締結しました。これまで幾度の市民訪問団の派遣や受け入れを行い、長きにわたり友好の絆を築き上げています。

近年では、従来の交流に加え、東京オリンピック・パラリンピックのオーストリア共和国のホストタウンとしての登録や、本市の中学生が蘇州市を訪問し、異文化への理解と国際感覚を醸成する「亀岡市・蘇州市スタディ・アブロードプログラム」を実施するなど、世代と国境を越えた交流を進めています。

今後は、こうした国際交流をさらに進め、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくような、多文化共生の地域づくりが必要とされています。亀岡市では、教育分野における外国語の指導体制の充実、スポーツ・文化・芸術による個性を伸ばすグローバルな人材育成を進めるとともに、市内在住の外国につながるのある市民が安心して生活することができるよう、「かめおか多文化共生センター」を開設するなどさまざまな支援体制の充実を図っていきます。

亀岡から、平和をつむぐ

互いを認め合い、それぞれが持つ個性が生きる共生の社会を創ることは、争いのない社会を構築し、いつまでも続く平和な世界を創りあげることに通じています。

亀岡市制が発足した昭和30（1955）年に全国に先駆けて行った「世界連邦平和都市」宣言、平成22（2010）年に核兵器廃絶の趣旨を込めて行った「世界連邦・非核平和都市」宣言には、世界恒久平和の実現を強く希求する願いが込められています。亀岡市は、紛争など一国では解決できない課題を扱う民主的な政府「世界連邦」の樹立を目指す「世界連邦運動」に掲げられた理念に賛同し、世界恒久平和の実現を願うメッセージを発信しています。

毎年、8月を平和月間と位置づける亀岡市では、さまざまな平和事業を開催。平和台公園平和塔前で行う「平和祈念式典」では、過去の大戦で命を犠牲にされた戦没者や災害犠牲者の冥福を祈るとともに、その教訓を活かし、平和な世界を次世代につなぐことを誓い、祈りを捧げます。また、子どもたちが太陽光から採火する「平和の灯火」が、慰霊の思いを込めて祭壇に献火されます。そして、丹波音頭などに合わせて平和の輪を広げる「亀岡大踊り大会」、平和を願い打ち上げる大輪の花火がふるさと亀岡の夏を彩る「保津川市民花火大会」、市内の中学生が広島市に向き、平和記念資料館や被爆体験講和の聴講などを通じて平和の尊さを学ぶ「ヒロシマ」に学ぶ「平和の旅」など、今日の平和に感謝し、その尊さを伝え、世界恒久平和への願いを世界に広げていく心が、市民一人ひとりに息づいています。

未来を、描く

亀岡の新たなランドマーク、
サンガスタジアム by KYOCERAを核にしたにぎわいの創出と、まち全体でスポーツを楽しめる環境の創造が、これからの亀岡が目指すすがたです。

In 2020, the "Sanga Stadium by KYOCERA" opened in Kameoka.
As a stadium co-existing with nature, this brand new landmark has brought forth a whole new level of excitement to the city.
Located nearby the stadium at the north exit of JR Kameoka Station, "Kamekita Sanga Square" serves as a place of recreation and relaxation for many citizens.
Kameoka is the home town for the J League soccer team "Kyoto Sanga F.C."
Kyoto Sanga F.C. works closely with Kameoka to help create a healthy and bright community through an assortment sporting activities and children's programs.
Outdoor sports such as rafting and cycling are very popular pastimes in Kameoka.
Climbing facilities have also been newly established within the city.
Picturing the city as a "big field", Kameoka strives to create an environment where anyone can easily become involved in sporting activities.

京都サンガF.C.のホームタウン

亀岡市をホームタウンとする京都サンガF.C.は、子どもたちの健全育成を支援しており、スポーツを通じて健康で明るいまちづくりに貢献しています。

京都サンガF.C.が子どもたちを対象に行うプログラムは、仲間づくりや問題解決能力の向上を目的とした「サンガつながり隊」やサンガの選手が小学校を訪問する「スポーツアカデミースペシャル」、普及部コーチによる「サッカースクール」などを通じて、子どもたちが気軽にスポーツの面白さを体験することや、健全な心身を育成することを目的としています。

亀岡市の新たなランドマークであるサンガスタジアム by KYOCERAを拠点にする京都サンガF.C.を地元から盛り上げていこうと、市内の商店街などでは、キャンペーンの展開などを通じて力強く応援し、京都サンガF.C.の健闘に力を添えています。

スポーツは、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重し協調する精神、公正さと規律を学ぶ態度やチャレンジする心を培い、実践的な思考力や判断力を育み、人との絆の中で自身を成長させるものです。

また、人と人や地域との交流を促進し、地域内の一体感の醸成、地域社会の活性化に寄与するの、スポーツの大きな役割です。

スポーツは「みんなのもの」です。スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、すべての人々がスポーツに関わり、生活の一部にし、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにすることは、亀岡市が進める健康で明るいまちづくりの理念です。



サンガスタジアム by KYOCERA の観客席を埋め尽くすサポーター



京都サンガF.C.による
スポーツアカデミースペシャル



京都亀岡ハーフマラソン



スポーツクライミング



パラグライダー



ラフティング



サンガスタジアム by KYOCERA



かめきたサンガ広場

スタジアムとともにある、希望の未来

令和2(2020)年、亀岡市に、京都府の球技専用スタジアム「サンガスタジアム by KYOCERA」(京都府立京都スタジアム)がオープンしました。

緑鮮やかな天然芝のフィールドで繰り広げられる熱戦。観客席を埋め尽くしたサポーターからは、駆け抜ける選手たちの活躍を後押しする力強い声援が響きます。

「サンガスタジアム by KYOCERA」は、ふるさととの明るい未来を切り拓く新たなにぎわい創出の拠点であるとともに、アユモドキを含む自然環境と共生するスタジアムです。保津川と美しい山並みを背景に、堂々と構えるスタジアムの姿は、亀岡の新しい時代のランドマークとして存在感を示しています。

また、スタジアムの西側には、亀岡市の新たな玄関口として、幅広い世代の人が憩い、快適で魅力あるにぎわいの場となる駅前広場を目指して整備した「かめきたサンガ広場」があります。「サンガスタジアム by KYOCERA」をホームスタジアムとする京都サンガF.C.のホームゲーム開催日などに、この広場でマルシェやイベントなどが行われ、来訪された人たちをもてなすとともに、亀岡の新たなにぎわいのシーンを創ります。

その他にも、JR亀岡駅北からスタジアムにかけてのゾーンには、新たな宿泊施設や店舗など商業施設の出店も計画されており、スタジアムを核として、今後さらに亀岡の新たなまちづくりが進んでまいります。

亀岡で「まるごと」スポーツを楽しむ

亀岡市内にサイクリングやトレッキング、ハイキングを楽しむ人たちが多く訪れているのは、スポーツ好きにとって亀岡が魅力的な場所であることの表れでしょう。また、市内最大のスポーツイベントである「京都亀岡ハーフマラソン」は、京の奥座敷、亀岡の地で自然を感じながら駆ける、日本陸上競技連盟認定のコースが人気で、全国から多くのランナーが集まります。他にも、サンガスタジアム by KYOCERA、亀岡市交流会館に設置されているスポーツクライミング施設や、豊かな自然環境を活用したラフティングやパラグライダーなど、アウトドアスポーツが盛り上がりを見せています。このように、新たなスポーツライフの創造が、亀岡市を舞台に始まろうとしています。

亀岡市全体を一つのスポーツフィールドと見立てて、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組むことは、スポーツを通じて多様な価値観を共有することにつながります。ここで醸成された意識や行動を社会の課題解決に向けることができれば、生活習慣病の予防・改善や健康寿命の延伸などの実現だけでなく、世代や性別、障がいの有無、国籍などに関係のない、心のバリアフリーや共生社会を構築することができます。また、人口減少や高齢化が進む中、スポーツ資源を地域の魅力づくりとすることで、地域経済の活性化を図ることができます。

今まさに、空と山と川と田園を感じながら、豊かな時間をもちたらし、地域を元気にし、人と人とのつながるスポーツを楽しむことが、亀岡市においては、今後の課題解決のキーワードとなろうとしているのです。

自然と、 ともにある文化

ふるさと亀岡を象徴する風景、丹波霧。
都市部での生活の便利さと田舎暮らしの楽しさが両立
する住環境。
大自然が生み出すキャンパスに、
亀岡の人たちは自由に「暮らし」を描いています。

The “Tamba Fog” that appears from late Autumn to Winter is symbolic to Kameoka’s landscape.
This beautiful scenery can be viewed from the “Kameoka Fog Terrace”.
Kameoka’s living environment combines the convenience of living in the city with the enjoyment of a country lifestyle.
The “Kameoka KIRI Art Cultivation” fosters the charm of Kameoka through artistic activities based around the lives of community members.
An old residence renovated by the students of the Kyoto University of the Arts, KIRI CAFE acts as a base for various “Kameoka KIRI Art Cultivation” events, on top of operating as a relaxing cafe.



オンライン配信によるトークイベント
KIRI WISDOM



KIRI CAFE



KIRI CAFE



かめおか霧の芸術祭コアイベント
生ける野菜展



芸術家たちが講師となるワークショップ
KIRI² 芸術大学



「農」とアートをつなげる
移動式キッチン付き屋台「やおやおや」



亀岡ゆかりの芸術家の展覧会
KIRI EXHIBITION「副産物産展」



かめおか霧の芸術祭コアイベント
シンポジウム「世界に誇れる環境先進都市亀岡」



KIRI マルシェ



かめおか霧のテラス



亀岡盆地を包む丹波霧による雲海

亀岡盆地の息吹、丹波霧

「亀山は 蓬萊島か 霧の海」という句が江戸時代の俳人によって詠まれたと伝えられているとおり、晩秋から初春にかけて、亀岡盆地は霧の発生頻度が高いことで知られています。この霧は「丹波霧」と呼ばれ、盆地一帯を包み込むように発生し、幻想的な風景を作り出します。山の上など高所に昇れば、眼下一面に雲海が広がる絶景を一望することができ、ふるさと亀岡の情緒的な風景として、観る人の心に強い印象を与えます。市内の鍬山神社に奉納されている「矢田社奉納和歌（矢田八景）」は、安政4（1857）年、氏子であった奥田采月が絵師である村上松嶺に描かせた絵巻で、和歌とともに「天岡夏雲」「社頭丹楓」（鍬山神社の紅葉）「大枝涼月」（大江山の月）「愛宕初雪」「保村帰鷺」（保津川の白鷺）「年山夜雨」（千歳山）「桂峯朝霞」「亀城秋霧」の八景が描かれ、霧に包まれた丹波亀山城の幻想的な美しさを伝えています。

現代においても、その風景は人々を魅了しています。竜ヶ尾山山頂（東別院町）に設置されている「かめおか霧のテラス」は、亀岡市内中心部から自動車ですら約5分でアクセスできる絶好の眺望スポットです。霧の発生状況は（一社）亀岡市観光協会のホームページから確認することができ、発生した日の朝には、多くのフォトグラファーが訪れています。また、霧のない時でも、亀岡盆地を見渡せるロケーションは最高です。
深い霧が織り成す美しい風景。いつまでも変わらない、ふるさと亀岡の象徴として、私たちの心の中に生き続けます。

「霧」と「アート」が 結びつくまち



亀岡市の特色である「霧」を象徴として、亀岡市民の暮らしこそが「アート」そのものであるとの視点から、市内一帯でアートを耕し、人と地域の魅力を育てる「かめおか霧の芸術祭」を開催しています。

平成30（2018）年に行われたキックオフイベントを皮切りに、令和元（2019）年には、アートの視点から身近なものや暮らしの中を見つめ直し、生き方のヒントとなる知恵や物語をみつめるトークイベントや、亀岡ゆかりのアーティストや地元の学生・生徒たちともに行うワークショップ、展示会、アートの視点で「つくる」「食べる」を体験できるマルシェなどを、年間を通じて開催。

また、千歳町にある古民家を学生とともに改修した交流スペース「KIRI CAFE」は、「かめおか霧の芸術祭」の活動拠点となっています。日本の原風景が残る癒しの空間に身を委ね、定期的に開催されるさまざまなイベントに参加したり、週末にオープンするカフェでくつろいだり、自由な感性に心地よく響く、亀岡ならではのスポットです。

他にも、農業や環境をはじめとした各種施策と霧の芸術祭が分野横断的に連携を図り、アートを通じた地域の魅力発信や課題解決に向けて取り組んでいます。
「かめおか霧の芸術祭」の活動は、いにしえから続く亀岡の自然の息吹を、人の手と発想によって地域の新たな価値に昇華させる取り組みです。四季折々の美しい風景と出会いながら、亀岡に魅了されて活動する芸術家とともに、これからも人と地域の魅力を育ててまいります。

アクティブ&スローライフ 「トカイナカ」の可能性

亀岡でのライフスタイルには、アクティブでいきいきとした生活と、豊かな自然に心癒されながらゆったりと過ごす時間がともにあります。

都会での生活の便利さと田舎暮らしの楽しさをあわせ持つ「トカイナカ」の価値が、大きな可能性を秘めています。

The Kameoka lifestyle combines the conveniences of the city with the enjoyment of residing in the countryside.

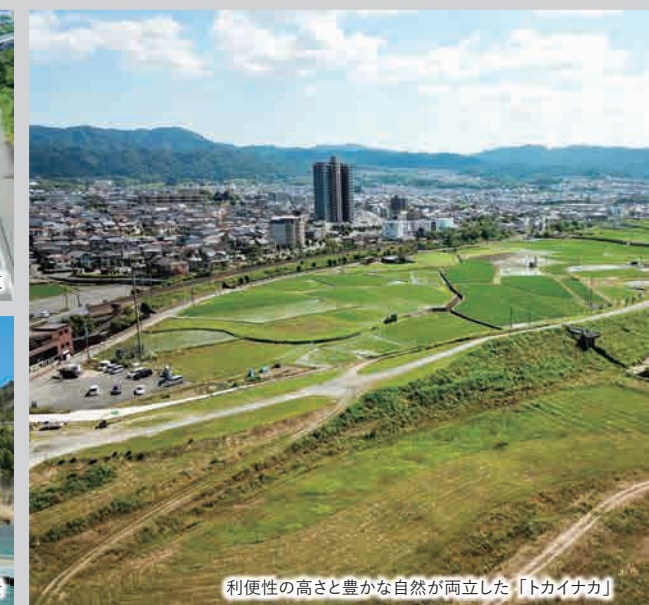
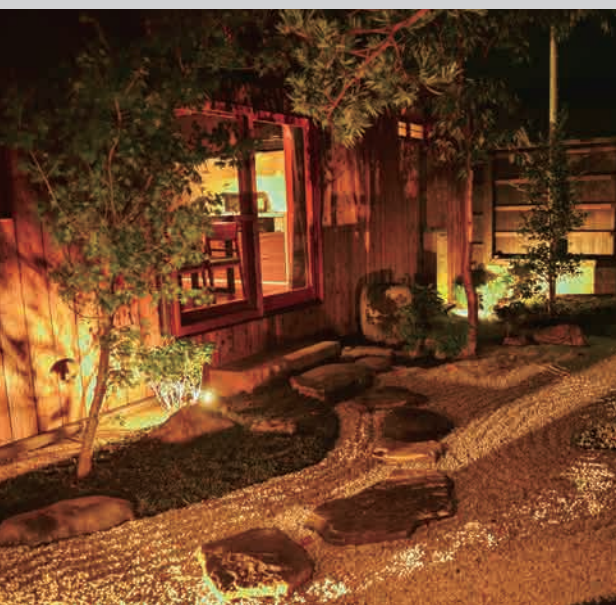
As a way to combat population decline, an "unoccupied house bank", which introduces vacant houses, is available for people who are interested in moving to Kameoka. There are also plans for a system that would allow people to build houses and create small businesses in designated areas where development is currently restricted.

Additionally, for those thinking about moving to Kameoka, "Hanare Ninoumi" is an accommodation that provides the experience of a Kameoka lifestyle.

魅力あふれる地域づくりで移住・定住を促進

近年、長期間にわたり適正に管理されていない状態の「空き家」の増加は、地域社会において看過できない問題となっています。住宅所有者の高齢化による転居などが主な原因といわれていますが、景観や衛生面、防犯の観点からも対策を講じる必要があります。居住用として再利用することが解決への近道であり、亀岡市では「空き家バンク」を創設し、空き家を所有する人と、亀岡市への転入、市内転居による利活用を希望する人とのマッチングを図っています。市内の空き家物件の利活用を希望する所有者がバンクに登録すると、ホームページなどを通じて物件の概要が公開され、興味を持った人が担当職員の同行により見学することができま。実際の売買、賃貸借の交渉、契約などは当事者間で行うか、宅建業者などが仲介する仕組みです。

また、亀岡市では、人口減少や少子高齢化による地域活力の低下や地域コミュニティの維持が困難になるといった課題への支援策の一つとして「既存集落まちづくり区域指定制度」を運用しています。この制度は、一定の開発行為などが制限されている市街化調整区域の集落地を対象に、条例で区域、目的または予定建築物などの用途を定めることで、一定の開発行為などを許容する都市計画法に基づく開発許可制度の一つです。指定区域内では、都市計画法の許可を受けることで、空き地に自己居住用の住宅などの建築や空き家を小規模な店舗などに用途変更することが可能となります。



『「離れ」にのうみ』での癒しの空間
(上段・下段・左側)

古民家をリノベーションした『「離れ」にのうみ』

古くからある町並み

京都縦貫自動車道

JR 嵯峨野線 (亀岡駅)

ふるさと感じる、保津川がある風景

利便性の高さと豊かな自然が両立した「トカイナカ」

「トカイナカ」に住むというライフスタイル

少子高齢化社会と向き合うわが国において、私たちがこれまで体験したことのない本格的な人口減少は、将来に影響を及ぼす喫緊の課題であるといえます。地域によってその幅に差はみられますが、人口の減少傾向において、亀岡市も例外ではありません。そのような中で、特に地方都市においては、定住促進に向けて人口の流出や減少を抑制しつつ、Ｕターンなどの移住を促すためのさまざまな取り組みを進めています。

亀岡市は、豊かな水と緑に恵まれ、のどかな田園風景が広がる中で田舎暮らしの良さを楽しめる一方で、最近では京阪神都市圏との良好なアクセス、京都府の南と北からのゲートウェイとして利便性が高まっています。豊かな自然の中で、落ち着いたまちの雰囲気や住む人のあたたかさに包まれ、安心して子育てもできる生活環境。まさに「アクティブ&スローライフ」ともいえる亀岡の暮らしに魅力を感じ、実際に移住し新たに農業を始める人や工房などを構える人もいます。まさに都会と田舎のいいところをあわせ持つ地域「トカイナカ」としての価値が今、高まっています。

亀岡市では、新規就農や起業などをはじめ、移住者が安心して暮らし続けられるようサポートを行っています。このような新たなライフスタイルの確立は、魅力あるまちづくりにつながる可能性を秘めています。亀岡市に移住してきた人たちの多様な価値観と、古くからある伝統が融合して、また次の世代に受け継がれていくことで、新たな文化を創り出していくことが期待されています。

古民家再生で発信する「亀岡の美」

旧亀山城下町の西堅町にある『「離れ」にのうみ』は、築100年の古民家をリノベーションした宿泊施設です。人口減少が続く亀岡市への移住者を増やすため、移住希望者に市内への滞在、生活体験をしていただくための「お試し住宅」として、また観光の拠点として、一棟貸しの機能を持たせた宿泊施設です。敷地内には建物が4棟あり、宿泊部屋からは美しい庭が見え、日本家屋の伝統と趣に包まれた空間は、日常の気忙しいさから抜け出した、まるでふるさに帰ったような癒しの時間を提供しています。

近隣飲食店のおいしい料理をダイニングキッチンで楽しんだり、地元食材を自分たちで調理することも可能です。また、檜の壁に囲まれた浴室など、居心地の良さにもこだわっています。改修にあたっては、亀岡市在住の東洋文化研究者、京都・かめおか観光PR大使であるアレックス・カー氏が企画監修されました。「柱や畳、漆喰や瓦など自然由来のもので造られている日本家屋の気の通り、天井の梁を見せる空間のゆとりや、庭の美しさなどの「日本の美」を実際に体感してください」と話されています。

『「離れ」にのうみ』は、亀岡の歴史ある街並みの中で、「日本の風情」の魅力を体感できる空間と時間を提供しています。

亀岡市ではこのように、地域資源や地域の魅力、特徴を活かしたまちづくりと、その場所に人を呼び込み、地域コミュニティの維持、活性化させる取り組みに積極的に取り組んでいます。

育ちと、学び

明日を担う子どもたちが、輝き続けられるように。
 亀岡に住み、子育てをしてよかったと思えるように。
 さまざまな施策と特色ある教育で、
 かめおかっ子の育ちと学びをサポートします。

Kameoka established the “Kameoka Childcare Generation Comprehensive Support Center – BCome” as a stable support system for parents during pregnancy and child-rearing.

Moreover, Kameoka strives to enhance the educational environment and educational content through the “Small-Scale School” system and “Kameoka Nature Nurseries”. The latter of which offers a distinct program that has students learn through interacting with the nature around them.

自然の中で遊び、学び、ふるさとを知る

野山を駆け回ったり、田んぼで泥んこ遊びをしたり、色々な生き物を発見したり・・・幼児期に自然の美しさや不思議さに直接触れる体験により、子どもたちの好奇心や自己肯定感、表現力、創造力など非認知スキルが向上すると言われています。亀岡市では、豊かな自然環境や地域資源を生かし、戸外での自然体験活動を積極的に取り入れた「亀岡型自然保育」を、認定こども園（本梅こども園、森の自然こども園東本梅）において実施しています。

特に、3～5歳児は保護者の就労の有無を問わず通うことができる、保育所と幼稚園の両方の特性を持った認定こども園と「自然保育」を組み合わせていることが亀岡市での大きな特徴です。「森の自然こども園東本梅」では、子どもたちが保護者や地域の人と協力して作り上げた園庭がシンボルとなっています。また「本梅こども園」では、自然体験を積極的に取り入れるとともに、小学校に隣接する立地を活かした教育・保育を進めています。

また、亀岡の自然や文化に触れ、ふるさとを愛する心を育てること、共に学んだ友人との生涯の思い出作りができるよう、中学校を卒業する3年生を対象とした「ふるさと体験学習事業『京都亀岡 保津川下り』」を実施しています。この事業には、参加した生徒たちが亀岡の自然の中で、自分たちが育ったふるさとの素晴らしさに気づき、ふるさとを愛する心を忘れることなく、人生のフィールドで活躍してほしいという思いが込められています。

このように、亀岡市ならではの地域の特色を生かしながら、個性を伸ばし、次世代を担う人材を育むため、亀岡市独自の子育て環境の整備が進んでいます。

施策や行事を通じ、かめおかっ子の育ちと学びをサポート



子育てで「よかった」があるまちへ

核家族化や共働き家庭の増加など、近年の子どもたちと家庭を取り巻く状況は大きく変化しています。ライフスタイルが多様化する中であっても、子どもが一人ひとり健やかに成長することができる社会を実現するためには、すべての家庭が安心して子育てができるよう、地域ぐるみで支援する体制を進めることが重要です。亀岡市では、妊娠期から子育て期にある親に対し、切れ目のない支援を実施できるよう「亀岡市子育て世代包括支援センター BCome」を設置、地域の関係機関がネットワークを構築し、連携、協働する中で支援の体制を整備しています。

「BCome」には、子育てや福祉に関する知識を持った保健師や助産師、社会福祉士などが在籍し、相談、情報提供やアドバイスにより妊娠中の人や家族全員が、出産・育児に向けて安心できるようサポートしています。また、子どもの成長に合わせて、必要に応じて子育て支援機関や家庭相談員、医療機関などとも連携してより広く支援ができるよう体制を整えています。また、「BCome」がある亀岡市保健センター「BCome+」は、「子育てワンストップ窓口」として、子育てに関する窓口を同じ建物内に集約し、子育て支援の拠点としての機能を充実させています。

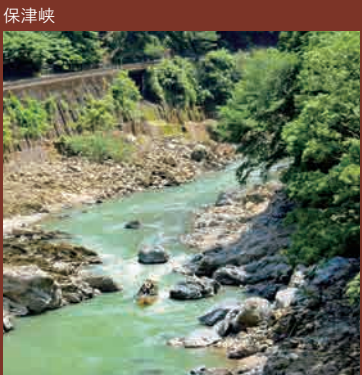
明日を担う子どもたちが一人の人間として尊重され、また、育てる親たちにとっても、「ここで子育てをしてよかった」と思える地域社会を構築することは、よりよい未来のために必要です。これからも、亀岡市が「子育て・教育で憧れのまち」となるよう、支援施策を進めてまいります。

特色ある教育で、子どもたちを育む

亀岡市ならではの特色ある教育施策を実施することにより、時代の要請と社会構造に適応した教育環境の創出に取り組んでいます。義務教育学校である「亀岡川東学園」では、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な学習指導を行い、児童生徒の学習意欲の向上や学習習慣の定着を図り確かな学力を育成し、一人ひとりの個性や能力を伸ばすこととしています。

東別院・西別院・保津小学校で実施している小規模特認校制度は、特色ある教育を推進している小規模な学校に、一定の条件のもと校区外からの通学を認める制度です。東別院小学校では、地域全体で子どもの成長を支える中で、さまざまな分野で体験活動を行っています。また、少人数を生かし、一人に一台用意されたタブレット端末を活用した教育にも取り組んでいます。西別院小学校では、児童一人ひとりの社会的な自立に向けて、起業体験活動を行っています。仮想会社を設立し、自分たちで開発・販売を行うなどキャリア教育の推進に力を入れています。保津小学校では、地域や大学と連携を図り、英語を身近に感じる「エンジョイ イングリッシュ シャワー」を実施し、外国の文化に慣れ親しみながら英語学習ができるようにしています。

他にも、亀岡市では、子どもたちが生きていく上で必要な基礎的・基本的な学力を確実に身に付け、「質の高い学力」を育成するとともに、豊かな人間性を育む「心の教育」の充実を図ることとしています。そのために、必要な教員の資質の向上や安全対策、施設・設備の整備や家庭・地域社会との連携を図るなど、必要な教育環境と教育内容の充実を推進しています。



保津峡

太古

亀岡盆地ができたのは、近畿地方の広い範囲で地殻変動が起きた200、500万年前。当時は上流からの水を蓄えた巨大な湖でした。水はやがて狭い峡谷を経て京都方面へ流れ、現在の保津峡となりました。

縄文・弥生・古墳時代

縄文時代の遺跡である鹿谷遺跡で見つかった黒曜石の槍先は島根県隠岐島産、千代川遺跡で出土したサヌカイトという石の槍先は奈良県二上山産であると推定されます。さらに弥生時代後期の集落遺跡である北金岐遺跡では、近江、摂津地方の特徴がみられる土器が見つかっています。当時、すでに広域にわたる交流が行われていたことを示しています。千歳車塚古墳は、全長約80mにも及ぶ規模の大きな前方後円墳で、6世紀前半頃、丹波を治めた大首長の墳墓だと考えられています。

◀丹波国分寺跡（千歳町）

奈良・平安時代

奈良に東大寺が建立され、全国に国分寺が置かれた約1,200年前、丹波亀山には全国にも珍しく国分寺・国分尼寺が整然と並んで配され、生産性に優れた広大な農地も整備されました。このころ、京都嵯峨野一帯に住んでいた、渡来人である秦氏と関わりが深く、当時の地名「丹波国桑田郡」は、養蚕に優れた秦氏が保津川流域に桑田を拓いたことが発端ともいわれています。

また、王朝文化華やかな10世紀末、亀岡で生まれ、渡来人の末裔と伝えられる丹波康頼が、日本初の医術書である「医心方」を著し、朝廷に献上しました。以後、丹波家は、わが国の漢方医学に寄与し、丹波康頼から約30代を経た江戸時代、丹波家の家系である多紀家が代々、幕府の代表官医となっています。



千歳車塚古墳（野焼き実施時）（千歳町）



戦国時代 明智光秀

戦国武将、明智光秀は織田信長の命により、天正3（1575）年から5年の歳月をかけて丹波を攻略し、丹波亀山（亀岡市）に丹波亀山城を築きました。

天正8（1580）年には信長より丹波を与えられ、坂本城（滋賀県大津市）とともに、同城を本拠地として京都の東西の要衝を掌握。近江、丹波の諸侍や室町幕府の旧臣を中心とする家臣団を形成しました。

天正10（1582）年、毛利氏と対戦中の羽柴秀吉援護に向け中国地方への行軍を命じられた光秀は、その途上「敵は本能寺にあり」と宣言して京都に向かい、主君である織田信長を討ちました。その理由は今なお定かではありません。戦国史上最大の謎とされています。

これまで逆臣、三日天下などのマイナスイメージを抱かれることの多かった光秀公ですが、善政を行い、武芸に優れ、教養豊かで文化を愛する「智将」であったことも知られています。また、戦国武将として生涯珍しく側室を一切持たず妻・照子を生涯にわたって愛し続けました。明智家の家紋は「桔梗」。花言葉は「誠実な愛」。家族や家臣を大切にし、領民から慕われた光秀公の人柄を表すかのようにも言われています。

明智光秀公像（南郷公園）



明智光秀画像（本徳寺蔵）▶



現代も愛される光秀公

亀岡ゆかりの戦国武将である明智光秀は、現代においても広く愛されています。毎年5月に行われる「亀岡光秀まつり」では、戦国絵巻さながらの武者行列が旧城下町を練り歩き、多くの人が訪れます。また、光秀の首塚がある谷性寺（宮前町）門前では、明智家の家紋であるききょうが咲き誇る「ききょうの里」が人々を魅了します。

なお、亀岡市を含む9市2町で構成される「NHK大河ドラマ誘致推進協議会」は、長年にわたり明智光秀を主人公とした大河ドラマの誘致活動を展開してきました。その熱意が実を結び、ついに令和2（2020）年、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送が開始されました。放送開始とほぼ時を同じく、サンガスタジアム by KYOCERA 内特設会場に「麒麟がくる 京都亀岡大河ドラマ館」が開館。明智光秀の半生を描くドラマの世界観を、入館者に余すことなく伝えました。



ききょうの里（宮前町）

亀岡光秀まつり（城下町一帯）



麒麟がくる 京都亀岡大河ドラマ館

1500 年頃～

1300 年頃～

740 年頃～

丹波亀山城

山陰道の要衝として、織田信長の命により明智光秀が築城した丹波亀山城。光秀はこの城を中心に周辺の村の人々を移住させ、城下町の基礎を作りました。

江戸時代、幕府は交通の要衝として重要視し、慶長15（1610）年には天下普請によって城郭が整備され、築城の名人、藤堂高虎によって五層の天守が築かれました。現在も残る石垣の一部には、当時、石垣普請を担当した諸大名による刻印が残っています。以後、山陰道の要衝として260年余にわたってそびえ続けました。現在は、天守台の石垣と堀が往時を静かに物語っています。

丹波亀山藩には藩主として譜代大名が置かれ、城下町はさらに発展しました。山陰道に沿って東西に延びる町は、宿場町としてもにぎわいを見せ、短冊状の町家が広がる町並みが、このころ形成されました。現在も京格子、虫籠窓の町家が一部に残り、下町の佇まいを色濃く残しています。商家に多い平入町家と、農家に多い妻入町家が混在し、独特の風情を醸し出しています。

丹波亀山城天守古写真
(美田村顕教撮影、亀岡市文化資料館提供)



城下町に残る町家



丹波亀山城図（四国中央市教育委員会所蔵）



丹波亀山城跡（大本本部、荒塚町）



足利尊氏像（神奈川県立歴史博物館蔵）



篠村八幡宮（篠町）

鎌倉・南北朝・室町時代

暦応元／延元3（1338）年に室町幕府の初代将軍となる足利尊氏は、源氏の将軍断絶後、源氏の流れをくむ有力武士であった足利家の嫡流として生まれ、御家人の間で重んじられていました。その存在は、時の将軍・北条氏に劣らぬものがあつたといわれています。

北条氏の専制政治が強まる14世紀初頭、尊氏は源氏再興を願うようになり、ついに正慶2／元弘3（1333）年、北条氏打倒を決意します。現在の篠町、丹波国の篠村八幡宮で鎌倉幕府の討幕と源氏再興を祈願して挙兵、京の都に進軍し六波羅探題を攻め落とします。

その時、尊氏は28歳。病で54歳の生涯を閉じるまで、その人生は戦いの連続でしたが、原点である篠村八幡宮を忘れることなく、社領の寄進、安堵などを行い、手厚く保護したのでした。

A Thousand Years of Kameoka' History

Early Days

Around two to five million years ago, plate movements created a large number of basins in the Kinki region – the Kameoka Basin being a large example.

Jomon, Yayoi, and Kofun periods(13000BC-710AD) kameoka first became inhabites around 10,000 years ago. The stone used on an arrowhead found in the Rokuya dig is highly likely to have originated in Shimane Prefecture, indicating the wide area trade encompassed in ancient times.

Nara and Heian Periods(710-1192)

About 1,260 years ago, the Todaiji Temple was built in Nara and sub-temples were built throughout Japan. In Kameoka, a monk's temple and nun's temple were built adjacent, a configuration not often found in Japan, and large and productive farmlands were laid out. This precedes the establishment of the capital in Kyoto by 50 years. Kyoto in those days was a swamp in the hinterland.

Kamakura to Muromachi Periods(1192-1573)

Ashikaga Takauji became the first shogun in 1338, having staged a successful coup d'etat after praying for victory at a shrine in what is now Shinocho, Kameoka City.

Azuchi-Momoyama Period(1573-1603)

Under orders from the great feudal lord, Oda Nobunaga, Akechi Mitsuhide (who later turned against Nobunaga and murdered him) took five years from 1575 to subjugate the region around what is now Kameoka and built Kameyama Castle.

近代

以後、丹波篠山は京都の背後にある要衝であることから頻繁に譜代大名による藩主の交替が行われますが、寛延年間に松平信寧が藩主になってからは、形原（かたのはら）松平家が明治維新まで、8代約120年間続くことになります。

◀角倉了以木像
(大悲閣千光寺藏)

円山応挙画像▶
(國井義彦氏蔵)

◀石田梅岩画像
((一社)明倫者蔵)

円山応挙作 紙本淡彩群仙図(左) 紙本淡彩波濤図(右)(金剛寺所蔵)

こうした中、丹波亀山藩は城下町として、また山陰道の宿場町としてにぎわいを見せます。そして安定した時代を背景に、思想家である石田梅岩は「一人の人たる道」を追求し、心学の祖として民衆の範となりました。他にも、日本最初の人体解剖を行った山脇東洋、岡山派画風を確立した岡山広孝など、優れた人材を輩出しました。そして、心学の教えである「儉約」を実践した浄財を持ち寄り、町ごとに祭の鉦を建造するなど、町衆の活動が展開されたのです。

京の都よりも長い歴史が息づく丹波・亀岡。
その遙かな時の流れを物語る貴重な文化財が今も数多く現存し、
悠久の文化を現代に伝えています。

史跡、建造物、彫刻、絵画、書、名勝、天然記念物など、
さまざまな形で市内の各所に保存されており、
国指定重要文化財だけでも 25 を数えます。

(写真提供 地域資源を掘り起こす会)

方、太い三道から肩、胸にかけての重量感に満ちた造形、側面から見た腰辺の量感など、平安前期の仏像の特徴が表現されています。

(極樂寺所藏)

(写真提供 地域資源を掘り起こす会)

正安3(1301)年に仏師定有によって造像されたもので、以後2回補修されています。

(金輪寺所蔵)

(写真提供 地域資源を掘り起こす会)

市内でただ一つの鑄鉄仏である鑄鉄製薬師如来坐像。像高は51.5cmと小型のものです。同じ鑄型で造られたものが、ドイツのケルン東亜美術館と京都市右京区山ノ内の念仏寺にあります。

(大円寺所蔵)

六太寺は西国観音霊場二十一番札所。寺の庭は京都府指定文化財に指定されています。本堂に祭られているのは、市指定文化財の珍しい木造の釈迦涅槃像（写真下）です。諸病平癒に効き目があるといわれ、自分の身体の具合のよくないところと同じ部分をなでると治るといわれています。

和銅 2 (709) 年の創祀と伝えられ、丹波国の一の宮、また「延喜式」神名帳では明神大社に列する古い社です。三間社造りの本殿は国の重要文化財。興国 7 / 貞和 2 (1346) 年に足利尊氏が造営したといわれています。また、本殿背後の御影山は神体山として崇拝されています。

In Kameoka, Tamba, which has a longer history than Kyoto, numerous precious cultural assets bear testimony to the city's history.

Historic sites, buildings, sculptures, paintings, works of calligraphy, spots of scenic beauty and natural monuments are well preserved across the city.

In fact, Kameoka has as many as 25 Important Cultural Properties of Japan.

Edo Period
After Tokugawa Ieyasu unified Japan and established feudal domains. Kameyama became a bustling castle town and staging post. Peace and prosperity led to renowned scholars and artists emerging from the region for examples, Ishida Baigan, who founded Shingaku philosophy, Yamawaki Toyo, who was the first in Japan to dissect human body, and Maruyama Okyo, who established a new painting style.

In 1869, Kameyama changed its name to Kameoka and in 1871 became part of Kyoto Prefecture. On January 1, 1955, the town of Kameoka merged with 15 villages reorganization continued but by 1957 today's boundaries of Kameoka became established.

現在の市庁舎



明治維新を迎え、新政府が目指す中央集権体制が確立していく中で、明治22（1869）年、丹波亀山は、伊勢亀山との混同を避けるために「亀岡」と改称します。明治10（1877）年には廃城令に基づき、丹波亀山城は解体されました。

新しい時代に入り、亀岡は明治4（1871）年に亀岡県を経て京都府の管轄となります。明治12（1879）年には南・北桑田郡に分割され、明治22（1889）年の町村制施行に伴い南桑田郡が1町17力4村に、そして、昭和28（1953）年に発布された町村合併促進法により、南桑田郡では合併の気運が高まり、ついに昭和30（1955）年1月1日、南桑田郡では、亀岡町と東別院、西別院、曾我部、吉代、葎田野、本梅、畑野、宮前、大井、千代川、馬路、河原村、旭、保津の15力村が合併して亀岡市が誕生。翌年、船井郡東本梅村を編入、その2年後に西別院町の一部と東本梅町の一部を分市し、さらにその翌年に篠村を編入し、今日の市域が形成されました。



1800 年頃～

1600 年頃～



保津町の請田神社付近から京都の渡月橋手前まで続く、四季それぞれに異なる景観の表情を見ながら峡谷に沿って優雅に走るのが嵯峨野トロッコ列車です。トロッコ亀岡駅から嵯峨嵐山駅までおよそ7・3キロメートルを約25分で結ぶ車両は、旧国鉄時代に使われていたディーゼル機関車。その開放感にあふれたレトロロでかわいらしい雰囲気からロマンチックトレインと呼ばれており、眼下に広がる峡谷の絶景を肌で感じることができます。

この鉄道は、京都市政界の大御所といわれた田中源太郎が敷設に情熱を傾けた京都鉄道（旧山陰本線）の一部。春は山桜、夏は新緑に可憐な岩つつじ、秋には燃えるような紅葉、初冬は雪景色。四季を感じながら8つのトンネルをくぐり抜けるたびに、感動が待ち受けています（厳冬期は運休）。

溪谷美をめぐる旅路。嵯峨野トロッコ列車

The “Hozugawa River Boat Ride” is a river trip of around 16 km that runs through the mountains down to Arashiyama, Kyoto. Its history began in 1606 when Ryoi Suminokura, a wealthy merchant in Kyoto, opened up the waterway for boat transport by excavating the Hozu River. Many from all over the world come to enjoy the thrill of the torrents alongside the flowers, greenery, snowy landscapes, boulders, and strange stones that comprise the beautiful scenery of its four seasons. The Sagano Romantic Train is a sightseeing train that leisurely travels through the Hozukyo Gorge. The train provides a sense of openness and retro atmosphere while offering a superb view of the gorge. Yunohana Onsen is said to have been around since the era of the samurai. Nestled quietly between the mountains, visitors are able to take the time to soothe their body and soul all while enjoying the various delicacies that are served.

京の奥座敷、湯の花温泉で寛ぐ



大正から昭和初期



美しい四季の表情を見せる溪谷を行く保津川下り

四季の自然美を感じる「保津川下り」

丹波高地を源流とする桂川は、山間をめぐる保津川に至り、愛宕山麓の急峻な山あいの流れで京都の名勝、嵐山にたどり着きます。この間のおよそ16キロメートルを保津川と呼びます。保津川の清らかで豊かな水は、古くから亀岡の田園や里山に多彩な実りをもたらしてきました。また、都に物資を運ぶ舟運の歴史は古く、京都に都が造営される以前、長岡京に都が置かれたころに始まったといわれています。

慶長11（1606）年、川大名と呼ばれた京都の豪商、角倉了以は、息子の素庵とともに保津峡谷の激流の開削に着手。大変な難工事の末、水路が開かれ、米、麦、薪、墨などの特産品も舟で運ばれるようになり、丹波と京都を結ぶ動脈として大きく発展しました。その後、列車の開通や陸路での自動車による陸路の発達など、時代の移り変わりによって保津川の水運は次第に姿を消しましたが、明治のころから、四季折々の溪谷美を感じることができるようになりました。

花や緑、そして雪景色。巨岩、奇石、鏡のように澄み切った水面、あるいは激しく輝きを放つ落流。スリルを味わいながら船頭の巧みな舵取りに身を任せると、亀岡の母なる川、保津川の姿が見えてきます。

その優美な風景は、夏目漱石、水上勉、三島由紀夫など、多くの文学作品にも取り上げられました。イギリスやドイツの王族が川を下った記録も残っています。

季節によって変わる美しい保津川の表情は、現在でも人々の心を魅了し、世界中から多くの観光客が訪れています。

丹波の山懐で寛ぐ、湯の花温泉

亀岡市の中心部から西へ約7キロメートル、丹波の静かな山あいにある温泉郷「湯の花温泉」は、京の奥座敷として親しまれています。古くは、戦国の武将が刀傷を癒したという伝説も残されています。20世紀の中期、古文書に基づいて調査が行われ、源泉が再発見されたことで現在の温泉郷へと発展しました。

いで湯を彩る四季の風光、澄み渡る空気、しっとりとした佇まい、そして山や川、里山の匂を目にも美しく盛り付けた料理など、亀岡のおもてなしの粋を楽しむことができます。

泉質は、単純弱放射能泉（天然ラジウム温泉）で、神経痛、痛風、冷え性、胆石症などに効能があるとされています。温泉スタンドも設置され、容器を持参すれば温泉水を持ち帰ることができます（有料）、家庭でも温泉を楽しむことができます。

世界的なアーティスト、ジョン・レノンがオノ・ヨーコとともに湯の花温泉を訪ねたのは昭和52（1977）年。実は温泉旅行が目的だったのではなく、京都近郊の山あいで古民家を探していたといわれています。日本の原風景、あるいは伝統的な生活様式に興味を持たれ、この亀岡の地でインスピレーションを感じていたのかもしれない。

山里ならではの澄んだ空気、豊かな自然。京阪神からわずか約1時間のアクセスで、都会の喧騒から離れることができる、素朴で豊かな風情に癒される空間が、ここにはあります。



京みず菜



えびいも



聖護院かぶ



聖護院だいこん



賀茂なす



丹波くり



紫ずきん



小豆



ふるさと納税返礼品でトップクラスの人気を誇る京野菜

亀岡は一大産地、

自然と人が生み出す深みのある味わい

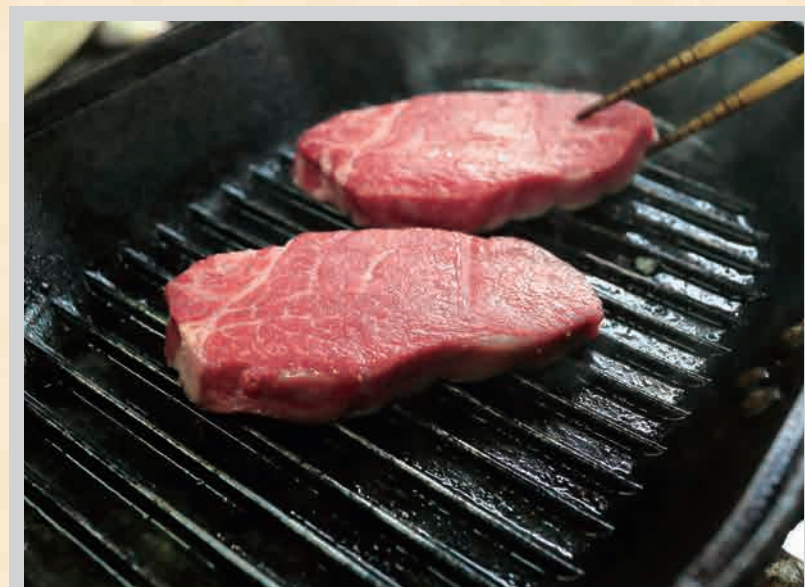
京野菜

亀岡市一帯は古くから京都府内有数の穀倉地帯として高い生産力を誇ってきました。特に賀茂なす、えびいも、京みず菜や聖護院だいこんをはじめとする京野菜、高い品質で名をはせる小豆や丹波くりなど、「京の台所」と呼ばれるにふさわしい産地として知られています。ふるさと納税の返礼品としても評価が高く、全国でもトップクラスの人気を誇っています。先進的な生産手法も注目されており、肥沃な大地と清らかな水、澄んだ空気と高い技術が織り成す滋味が人々を魅了しています。

自然の力と技 亀岡を味わう

肥沃な大地が生み、清らかな水に育てられた素材と、受け継がれ、磨かれてきた確かな技。
魅力あふれる亀岡の特産品は、質の高さが自慢です。

A combination of materials born from the fertile land and raised in the pure water, alongside the techniques passed down and polished throughout generations.
The high quality of Kameoka's local specialties are a source of great pride for the city.



亀岡の風土が育む極上の旨味 亀岡牛

1年を通じて寒暖差が大きい気候と美しい水と空気に恵まれた環境が、京都を代表する黒毛和牛「亀岡牛」を生育します。こだわり抜いて14カ月以上にわたり肥育された亀岡牛は、風味や脂の艶が際立ち、深い旨味ながらさっぱりとしたおいしさが特徴です。品評会でも入賞の常連で、ブランド牛肉としての評価を得ています。食の安全と安心は厳しく管理され、証明シールと取扱店の認定証表示が本物の証です。



恵まれた環境と生産者の努力が生む最高品質 米（キヌヒカリ）

亀岡を含む京都丹波地域で生育される「キヌヒカリ」は、日本穀物検定協会の米の食味ランキングで最高評価となる「特A」を獲得しました。天皇陛下の皇位継承に伴い行われた宮中祭祀「大嘗祭」に供納されるなど、恵まれた環境と生産者の限らない栽培努力によって育った最高品質の米として、揺るぎない高い評価を得ています。

大地の恵みと伝承の技の融合 地酒

酒づくりは米づくりに始まり、米づくりは土と水から、と言われるように、肥沃な土壌ときれいな水に恵まれた亀岡は銘酒の産地でもあります。城下町のにぎわいあふれる元禄時代から守り受け継がれてきた老舗の味わいから、新たな挑戦によって生まれた新しい地酒まで、お酒を通じて亀岡の伝統と革新に触れることができます。



黄金色に染まった大地が生み出す豊かな香り ビール大麦

京都府内で唯一のビール大麦生産地として、高い品質と安定した供給を維持しています。毎年、初夏に市内各地の麦畑が黄金色に染まると収穫の時期を迎え、大手ビール製造会社に出荷されます。また、ホップの栽培も行われており、ビールの主な原料となる大麦とホップを同一の産地で賄うことができ、「亀岡産」のビールも誕生しています。



豊かな香りと のどごしを楽しむ里山の味 犬甘野そば

標高400m近くに位置する西別院町・犬甘野地区は昼夜の気温差が大きく、そばの栽培に適しています。地元の営農組合が手掛ける「犬甘野そば」は、試行錯誤の上作られた上質な逸品で、大切に育てられたそば粉と山の芋の味が生きるふるさとの味として親しまれています。



四季の表情と 里山の恵み

豊かな自然に包まれた亀岡には、息をのむ美しい風景と自然の恵みがあります。
心に残る季節ごとの表情と、
森や里山に息づく人々の暮らし。
ふるさとの魅力をきらめかせています。

Kameoka is blessed to be surrounded by bountiful nature and a beautiful landscape throughout its four seasons.

At "Takumi Village Natural Whetstone Museum" in "Forest Station Kameoka" one can learn about the sharpening culture that has been the backbone of Japanese culture for generations.

Also located in Forest Station Kameoka is "Ouchi Yakuzen Wasurena". This restaurant serves delicious medicinal cuisine made from a root vegetable grown locally called "Chorogi" along with many other medicinal herbs.

As for other activities: visitors can take a walk through a medicinal herb garden, stay at the log house "Bird's Nest Lodge", all while enjoying Kameoka-style relaxation in the forest.

「森のステーションかめおか」で

自然の恵みを体感

森の京都・亀岡の美しい緑と森林資源、伝承される匠の技をテーマにした展示・体験型観光施設が「森のステーションかめおか」(宮前町)です。亀岡市で産出される天然砥石は、およそ2億5千万年前、太平洋赤道付近の深海底に堆積した有機物などが地殻変動により地表近くに隆起したもので、日本では、亀岡市の丸尾山を含む山系にだけ見られる地層から掘り出されます。「森のステーションかめおか」にある「匠ビレッジ 天然砥石館」は、日本の伝統を支えてきた「研ぎの文化」の魅力を伝える、世界初となる天然砥石専門の体験型博物館です。地元産の天然砥石や日本全国で産出された貴重な砥石の現物を展示、包丁研ぎや砥石製作などを体験するとともに、今日まで伝承される「匠の技」の奥深さに触れることができます。

また、薬草「チョロギ」や身近な薬草を地元特産品としてまちづくりに活かそうと、「森のステーションかめおか」内に設置された薬膳レストラン「お家薬膳忘れな」には、多くの人たちが訪れています。NPO法人チョロギ村が運営し、家庭で薬膳料理を作り家族の健康を守っていききたいという思いのもと、地元住民のスタッフが心を込めて料理を提供しています。メニューは薬膳御膳や薬膳カレー、チョロギうどんなどがあり、隣接する薬草庭園「薬草原」で栽培された薬草や地元で採れた野菜などを使っています。旬の食材が持つおいしさとアットホームな雰囲気は、多くのリピーターを生んでいます。



薬膳レストラン「お家薬膳忘れな」



薬草庭園「薬草原」



森のステーションかめおか



匠ビレッジ 天然砥石館



府内唯一、自生するオニバス



明智家の家紋である、ききょう



市の花、つつじ



七谷川の桜



「研ぎの文化」を体験



幽玄紅葉ライトアップ



京都丹波／亀岡 夢コスモス園



スポーツクライミング施設「カメロックス」



鳥の巣ロッジ

四季折々の表情に感じる、亀岡の美しさ

市の木として制定される「桜」が咲き誇る様子は、春の亀岡を彩る象徴的な風景です。七谷川沿い(和らぎの道)の1,500本に及ぶ桜並木をはじめとして、南郷公園、亀岡運動公園、平の沢公園(水鳥のみち)など桜の名所には、毎年、多くの人が訪れています。

新緑が鮮やかさを増すころ、市の花であり、市内に数多く自生する「つつじ」がまちを彩ります。また、初夏にかけて保津峡の岩肌に咲く「岩つつじ」は、保津川下りの名脇役です。

夏が近づくと、明智光秀ゆかりの花「ききょう」が咲き誇ります。光秀の首塚がある合性寺の門前では「ききょうの里」が開園し、紫や白、珍しいピンクや八重咲きのききょうが華やかな空間を演出します。また、平の沢公園の中池には、京都府唯一の自生地として、オニバスが可憐な花を咲かせます。

秋が訪れると、亀岡運動公園体育館周辺の「京都丹波／亀岡 夢コスモス園」では、一面に広がるコスモスが癒しの風景をつくり出します。亀岡市の平和の歌「うつくしもの」でも描かれる可憐な花が風にそよぐ風景は、市民の平和への願いが込められたものです。

秋も深まると、燃えるような紅葉が見惚れるほどの美しさを見せます。欽山神社や出雲大神宮など、数多くの紅葉の名所は艶やかに染まり、ライトアップされて幽玄さを醸し出します。

四季折々の亀岡の風景は、ふるさとへの優しさに包まれるような、いつまでも残したい心の原風景です。

亀岡流のリラックスを

「森のステーションかめおか」敷地内には、宿泊可能なログハウス「鳥の巣ロッジ」を設置しています。「鳥の巣ロッジ」は、豊かな自然の中でのんびりと過ごすことができるキャンプ場で、快適なコテージやキャンプサイトのほか、シャワー、トイレも完備されています。豊かな自然に包まれながら、家族や友人たちとアウトドアアクッキング、夜は星空を見上げる・・・そんな亀岡流のリラックスを楽しむことができます。

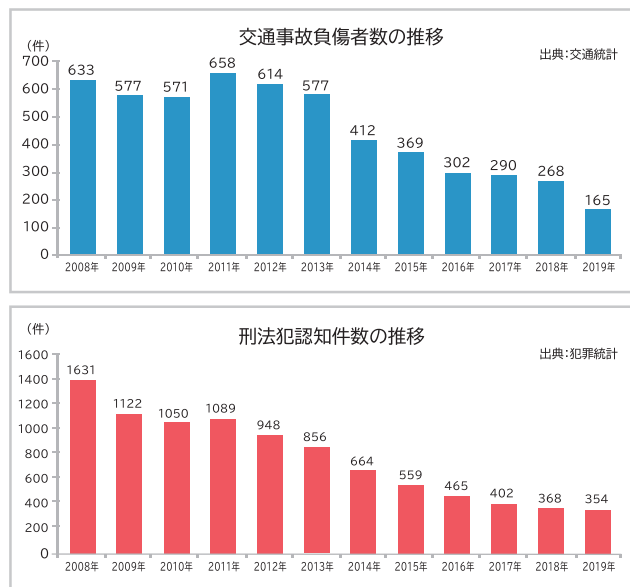
また、「森のステーションかめおか」がある亀岡市交流会館内には、室内で安全に楽しめるスポーツクライミング施設「カメロックス」が設置されています。気軽にチャレンジすることができうえ、体力アップに効果があるとして人気のスポーツクライミングを体験してみようと、多くの親子づれなどが訪れています。

亀岡の地に広がる美しい緑の風景と、森林や里山がもたらす恵み。そして、そこに息づく文化。亀岡を知るには、まず自然に目を向けてみるのがいいかもしれません。

安全・安心のまちづくり

亀岡市では、市民の皆さんと協働により、安全に、安心して暮らせるまちの世界基準「セーフコミュニティ」と、安全で健やかな学校、保育所の指標である「インターナショナル・セーフスクール」の認証を取得しています。

“Safe Community” is certified by the World Health Organization (WHO) Collaborating Centre on Community Safety Promotion.
In 2008 Kameoka became the first municipality in Japan to be certified as a “Safe Community”.
By working together with citizens to promote a safe and secure town, Kameoka received “Safe Community” re-certification in 2013 and once again in 2018.
As an initiative to promote the creation of safe, healthy schools and nurseries, Kameoka City received the “International Safe School” certification in 2015 along with re-certification in 2018.



セーフコミュニティの活動は、行政だけでなく、市民企業や組織、地域が一緒に「事故や自殺、犯罪がなく、安全に安心して暮らすためにどうしたらよいのか」を考え、自主的な活動を広げていくことに大きな意義があります。また、事象の発生件数や原因をデータ化することによって、記録から得た調査結果を対策に反映し、検証しながら評価を重ねていくことにより、活動を効果的かつ持続的なものに行っています。

この間の取り組みにより、亀岡市内の犯罪や交通事故は減少傾向にあります。また、安全・安心なまちづくりを進めるだけでなく、この活動をさらに広げ続けることで、近年薄れてきた隣近所の住民どうしのつながりや他人を思いやる心を大切に、誰もが健やかに暮らせる地域づくりにつなげることを願っています。



日本初のセーフコミュニティ認証取得都市

亀岡市では、不慮の事故や犯罪などを偶然の結果として捉えるのではなく、それらは予防できるものという理念に基づき、「交通安全」「防犯」「乳幼児の安全」「自殺対策」「高齢者の安全」「スポーツの安全」の6つの重点課題を設定し、市民や大学、民間企業、京都府などの協働で、誰もが安全に安心して暮らせる「セーフコミュニティ」のまちづくりに取り組み続けています。

セーフコミュニティは世界的な活動であり、セーフコミュニティ認証センターが認証制度を設けています。亀岡市は、平成20(2008)年3月、日本初となるセーフコミュニティ認証を取得。以降、発展的に活動を継続させ、平成25(2013)年に再認証、平成30(2018)年に再々認証を受け、安全・安心なまちづくりを推進するために、市民の皆さんとともに取り組んでいます。

セーフコミュニティ認証を取得するには、次の7つの指標を満たしている必要があります。亀岡市はこれらをすべて実現しています。

- 1 分野を超えた協働を推進する組織があること
- 2 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的な予防活動を行っていること
- 3 ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動を行っていること
- 4 入手および活用可能な根拠に基づいたプログラムを実施していること
- 5 外傷の頻度と原因を記録する仕組みがあること
- 6 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組みがあること
- 7 国内・国際ネットワークに継続的に参加すること

インターナショナル・セーフスクールの取り組み

セーフコミュニティ活動にあわせて、ケガや心の不調、その原因となる事故、いじめ、暴力を予防することによって、安全で健やかな学校や保育所づくりを進める活動として、インターナショナル・セーフスクール活動を推進しています。平成25(2013)年、亀岡市立曾我部小学校、社会福祉法人做義会亀岡あゆみ保育園、亀岡市立保育所など8カ所(本梅、東本梅、川東、中部、東部、第六、別院保津)が、幼少期から子どもたちの自身の安全・安心の意識を高め、学校や保育所が一つとなってケガや事故を予防する活動に取り組み、平成27(2015)年10月に認証を取得し、平成30(2018)年に再認証を受けています。

自治体ごとに認証を受けるセーフコミュニティと比較して、インターナショナル・セーフスクールは学校ごとの認証となるものであり、同じ自治体の中で10カ所もの学校・保育所(園)などで認証を取得したケースは他に例がなく、世界初の快挙といえます。これは、セーフコミュニティ認証都市としての活動実績と、安全・安心のまちの基盤を市民の皆さんとともに築きあげてきたからこそ実現できたものです。今後も、子どもたちの安全に対する意識をさらに高め、けがや事故などの危険を回避・予防する能力を育むとともに、より安全・安心な学校・保育所(園)などを目指して取り組みを進めてまいります。

1965-74 昭和40～49年	亀岡市のあゆみ	社会の動き
	昭和40年 ●市民憲章を制定 ●市花「つつじ」を決定	●米国が北ベトナム空爆を開始
	昭和41年 ●清掃事務所若宮工場が完成（大井町） ●市立図書館（旧）を開設 ●国道9号老ノ坂トンネル複線化開通	●IL087号条約発効（結社の自由・団結権）
	昭和42年 ●市道川東線着工	●ザ・ビートルズ来日
	昭和43年 ●東・西つつじヶ丘が誕生	●資本自由化決定
	昭和44年 ●市道湯の花温泉線が完成 ●京都学園大学（現・京都先端科学大学）が開校 ●府内で初めて女性の交通指導員を配置 ●都市計画道路クニッテルフェルト通りが完成	●キング牧師暗殺
	昭和45年 ●ごみ焼却場が完成（東別院町）	●小笠原諸島返還
	昭和46年 ●第2代市長に平田一義氏就任 ●市街化区域、市街化調整区域を設定	●メキシコシティー五輪
	昭和47年 ●市の人口が5万人を超える ●月読橋が完成	●川端康成氏にノーベル賞
	昭和48年 ●第1回「光秀祭」（現・亀岡光秀まつり）を開催 ●千歳簡易水道が完成 ●亀岡商工会議所が発足 ●市街化区域の用途地域を決定	●3億円強奪事件
	昭和49年 ●国道9号バイパスルートを発表	●東大安田講堂紛争

1975-84 昭和50～59年	亀岡市のあゆみ	社会の動き
	昭和50年 ●第3代市長に小島幸夫氏就任 ●「交通安全都市」を宣言	●沖縄国際海洋博覧会開幕
	昭和51年 ●市の人口が6万人を超える	●ベトナム戦争終結
	昭和52年 ●亀岡運動公園野球場が完成	●ロッキード事件
	昭和53年 ●亀岡運動公園テニスコートがオープン（曾我部町） ●清掃事務所桜塚工場（ごみ焼却場）が完成（東別院町） ●ごみ全市収集がスタート	●福田内閣成立
	昭和54年 ●第4代市長に谷口義久氏就任 ●山陰本線複線電化事業認可 ●消防庁舎が完成（荒塚町） ●学校給食センター業務を開始（小学校給食率100%に）	●モントリオール五輪、インスブルック冬季五輪
	昭和55年 ●山陰本線複線電化トンネル工事が起工（京都～園部間） ●市立図書館が新築オープン（内丸町） ●市の人口が7万人を超える ●初の名誉市民に大槻嘉男氏（初代市長） ●市の木「桜」を決定	●新東京国際空港（成田）開港
	昭和56年 ●市営月読橋球技場が完成（馬路町） ●友好訪中団蘇州市など4都市を表敬訪問 ●国道9号バイパス（現・京都縦貫自動車道）が起工 ●市総合計画（基本構想・基本計画）を決定	●日中平和友好条約調印
	昭和57年 ●京都中部広域消防組合が発足 ●「福祉都市」を宣言 ●七谷川野外活動センターがオープン（千歳町） ●総合福祉センターが完成（内丸町）	●大平内閣成立
	昭和58年 ●「第1回市民元旦ロードレース」を開催 ●月読橋第2球技場が完成（馬路町） ●市公共下水道供用を開始 ●国道9号の老ノ坂亀岡バイパス工事を起工 ●台風10号の温帯低気圧による水害が発生 ●市立図書館大井分室がオープン ●山陰本線複線電化工事の地藏トンネルが貫通 ●南つつじヶ丘が誕生	●第2次オイルショック
	昭和59年 ●市保健センター・休日急病診療所がオープン ●市民27人がオーストリア共和国を親善訪問 ●「第1回市美術展」を開催 ●「クニッテルフェルト市姉妹都市提携20周年記念式典」を開催 ●「暴力追放都市」を宣言	●スリーマイル島原発事故

1955-64 昭和30～39年	亀岡市のあゆみ	社会の動き
	昭和30年 ●市制施行（1町15カ村合併） ●初代市長に大槻嘉男氏就任 ●「世界連邦平和都市」を宣言	●第1回原水爆禁止世界大会
	昭和31年 ●国道9号亀岡地区が完成 ●船井郡東本梅村を編入合併	●日米原子力協定調印
	昭和32年 ●市都市計画審議会が発足	●「3種の神器」家庭電化時代が始まる
	昭和33年 ●西別院町、東本梅町の一部を境界変更 ●市歌を制定 ●市庁舎（旧）が完成 ●上水道給水を開始	●日ソ共同宣言
	昭和34年 ●市立自動車学校が開校（千代川町） ●8・13水害発生、市内に甚大な被害 ●南桑田郡篠村を編入合併	●メルボルン五輪
	昭和35年 ●台風16号被災	●国際連合加盟
	昭和36年 ●市営プールが完成（吉川町） ●10・28水害が発生	●石橋内閣成立
	昭和37年 ●つつじヶ丘団地住宅の造成に着工	●岸内閣成立
	昭和38年 ●府道天王亀岡線（畑野町土ヶ畑地内）が完成	●関門トンネルが完成
	昭和39年 ●オーストリア・クニッテルフェルト市と姉妹都市盟約を締結	●南極・昭和基地開設



明治2(1869)年の版籍奉還により丹波亀山は亀岡と名を変え、昭和30(1955)年1月1日、町村合併促進法により南桑田郡、1町15カ村の大合併により誕生した亀岡市。

1995-2004 平成7～16年

亀岡市のあゆみ

社会の動き



蘇州市と友好交流都市盟約を締結（平成8年）



水鳥のみち開通（平成8年）



ガレリアかめおか供用開始（平成10年）



第1回市民総合体育大会開催（平成12年）



保津橋供用開始（平成13年）



コミュニティバス実証実験開始（平成14年）



亀岡市立病院開院（平成16年）

平成7年

- 阪神・淡路大震災で市内西部地域などに被害
- 新発見の小惑星に「Kameoka」と命名
- 鉄道歴史公園がオープン（大井町）
- 平和台公園平和塔を初のライトアップ
- 高度総合医療施設整備研究会がスタート

平成8年

- 京都中部広域消防組合で高度救急業務を開始
- 医王谷埋立処分場拡張工事が完成
- 京都縦貫自動車道（亀岡～千代川間）が4車線化、開通
- 水鳥のみちが開通（馬路町）
- 「女性フォーラム」を開催
- 市国際センター（現・市交流会館）を開設（宮前町）
- 図書館ネットワークシステムを稼働
- '96東京国際女子マラソンで本市出身の藤村信子（現・比護信子）選手が優勝
- 市ホームページを開設
- 亀岡市・蘇州市友好交流15周年記念市民公式親善訪中団、蘇州市へ 友好交流都市盟約を締結

平成9年

- 篠インターチェンジのフルインター化が完成（篠町）
- 地域防災無線を開局
- 蘇州園オープン「平和友好の鐘」を撞ぎ初め
- 桜塚クリーンセンターが完成（東別院町）
- 教育研究所が開所（宮前町）
- 「水鳥のみち」が建設省「手づくり郷土賞」を受賞
- 湯の花温泉供給プラント、温泉スタンドが完成

平成10年

- 農業公園がオープン
- 亀岡市障害者基本計画を策定
- 「ガレリアかめおか」が建設省の「道の駅」に認定
- 銚町市道7路線が建設省の「手づくり郷土賞」を受賞
- ガレリアかめおかの供用を開始

平成11年

- 第5代市長に田中英夫氏就任
- 戸籍電子情報システムを稼働
- 新学校給食センターが完成
- 「関西地区生涯学習実践交流会亀岡大会」を開催
- プレミアム商品券を発売（11億円分）
- 市民情報コーナーを開設

平成12年

- 自治大臣表彰「活力のあるまちづくり」（人づくり部門）を受賞
- 亀岡市介護保険事業計画を策定
- 第2次亀岡市行政改革大綱（改訂版を策定）
- 生涯学習推進基本計画を策定
- 「第1回市民総合体育大会」を開催
- ガレリアかめおか来館者100万人を超える
- 京都市西京区と都市間交流へ京都市長と合意

平成13年

- 「カウントダウンかめおか21」新世紀の幕開けに約3千人が参加
- 第3次亀岡市総合計画をスタート
- 亀岡市情報公開条例を施行
- 京都府内で初めて「かめおかNPO情報センター」を開設
- 荒巻京都府知事が山陰本線京都～園部間の複線化を表明
- 市消防団が日本消防協会長「特別表彰まとい」を受章
- JR馬堀駅前区画整理事業が完工
- 京都丹波道路（千代川～八木西）4車線化、南丹パーキングエリアが完成
- 地域イントラネット整備をスタート
- 総額発行2億2千万円のプレミアム商品券を発行
- 「平和の手紙」6140通、一部はニューヨークの国連本部へ送付
- 牛海綿状脳症の不安に対して亀岡牛の安全を宣言
- 「第43回健康体力づくり運動推進全国大会京都大会」を開催
- 保津橋の供用を開始

平成14年

- 第1回「生涯学習賞」贈呈式・記念講演を開催
- 地域イントラネット「かめおか知恵の郷ネットワーク」の供用を開始
- 地球環境子ども村宣言・開村
- 女性だけの消防分団「つつじ分団」が誕生
- 世代間交流施設・ふれあいプラザがオープン
- 市立図書館馬堀分館「ふるさと学習プラザ」が開館
- 市立病院建設に着工
- 亀岡祭で羽衣山が復活、130年振りに11基揃って巡行
- 亀岡市と京都学園大学（現・京都先端科学大学）の学生が共同で「平和の歌・うつくしもの」を作成
- コミュニティバス実証実験を開始

平成15年

- JR山陰本線京都～園部間の複線化が決定
- 亀岡市が国の構造改革特別区域計画「都市・農村ふれあい交流特区」の認定を受ける
- 有料指定ごみ袋制が開始
- ファミリー・サポート・センターがスタート
- 盲導犬の映画「クイール」が亀岡市を舞台に撮影
- JR馬堀駅前自転車駐車場が竣工
- 出前タウンミーティングがスタート
- 第6代市長に栗山正隆氏就任
- こどもをまもる110番カーがスタート

平成16年

- 地球環境子ども村が自然環境功労者環境大臣表彰を受賞
- 亀岡市立病院が開院
- 新修亀岡市史が完結
- 姉妹都市盟約40周年を記念しオーストリア共和国クニッテルフェルト市へ公式親善訪問団を派遣
- 台風23号が亀岡市を直撃し、多くの被害をもたらす
- 市制50周年記念事業「カウントダウンイベント」を開催

●阪神・淡路大震災、年末までに死者60000人を超える

- 地下鉄サリン事件、死者11人
- 米大リーグで野茂英雄投手が初勝利
- ウインドウズ95発売、インターネット広まる

●橋本内閣成立

- アトランタ五輪
- 岡山県でO157による食中毒発生
- ペルー日本大使公邸人質事件

●消費税5%スタート

- 神戸児童連続殺傷事件
- 長野新幹線開通

●長野冬季五輪

- 小渕内閣成立

●欧州連合（EU）加盟11カ国による単一通貨ユーロがスタート

- 「地域振興券」の交付
- 東海村JOC臨界事故

●三宅島噴火

- 森内閣発足
- 沖縄サミット
- シドニー五輪
- マラソンの高橋尚子選手に国民栄誉賞決定
- 白川英樹氏にノーベル賞

●ユニバーサル・スタジオ・ジャパン（USJ）が開業

- 小泉内閣発足
- 米国で同時多発テロ
- 米英軍がアフガニスタンを空爆
- 野依良治氏にノーベル賞
- イチロー選手がア・リーグの最優秀選手（MVP）に選出

●ソルトレイクシティ冬季五輪

- アジア初の日韓共催サッカーW杯
- 住民基本台帳ネットワークシステムがスタート
- 北朝鮮に拉致された日本人被害者5人が帰国
- 小柴昌俊氏と田中耕一氏がノーベル賞ダブル受賞

●米国がイラクへの軍事行動を開始

- 新型肺炎（SARS）が中国などで流行
- イラク復興支援特措法成立、自衛隊派遣へ
- 松井秀喜選手が大リーグ・ヤンキースで活躍

●海上自衛隊本隊、イラク入り

- 北朝鮮拉致被害者家族が帰国
- アテネ五輪
- 新潟県中越地震
- イチロー選手が大リーグ年間最多安打記録を更新

1985-94 昭和60～平成6年

亀岡市のあゆみ

社会の動き



市民体育館が完成（昭和61年）



第43回国民体育大会（昭和63年）



京都縦貫自動車道開通（昭和63年）



第1回コレージュ・ド・カメオカ（平成元年）



市制35周年記念・市庁舎が完成（平成2年）



ロマンティック・トレイン嵯峨野トロッコ列車が開業（平成3年）



3カ国姉妹都市交流世界会議参加（平成5年）

昭和60年

- 国道9号バイパス新老ノ坂トンネルが貫通
- 市シルバー人材センターが発足
- 国道9号バイパス天岡山トンネルが貫通
- ジャンヂーラ市、スティルウォーター市姉妹都市盟約を締結
- 「亀岡ふるさと讃歌」を制定
- 市文化資料館がオープン（古世町）

昭和61年

- KBSラジオ「亀岡市声のおしらせばん」の放送を開始
- 府内最初のカントリーエレベータが完成
- 蘇州市建城2500年記念式典に亀岡市から6人が参加
- 山陰本線複線電化工事・愛宕トンネルが貫通
- 市民体育館が完成

昭和62年

- 亀岡運動公園スティルウォーターランドが完成
- 全国初・木の教育施設「若木の家」が完成（下矢田町）
- 市の人口が8万人を超える
- 燃えるごみ全市週2回収集を実施
- 亀岡運動公園クニッテルウッドランドが完成
- 亀岡運動公園競技場が完成

昭和63年

- 京都縦貫自動車道が開通（京都～亀岡間）
- 近畿初「生涯学習都市」を宣言
- 山陰本線複線電化工事第1保津トンネルが貫通
- 「第1回生涯学習都市推進会議」を開催
- 「第43回国民体育大会」を開催

昭和64年
平成元年

- 「第1回コレージュ・ド・カメオカ」（福井謙一氏）を開催
- JR馬堀駅・並河駅新駅が開業
- 「亀岡生涯学習市民大学」が開講
- JR馬堀駅前自転車等駐車場がオープン

●新元号「平成」

- 消費税がスタート
- 宇野内閣成立
- 海部内閣成立
- ベルリンの壁が崩壊
- マルタ会談、冷戦終結

平成2年

- JR山陰本線（京都～園部間）が電化、開業
- （財）生涯学習かめおか財団が発足
- 亀岡障害者作業所が開所
- 京都縦貫自動車道拝田トンネルが貫通（千代川町）
- 亀岡運動公園プールおよびレインボーブリッジが完成
- 燃やさないごみ分別収集を実施
- 市制35周年記念・市庁舎が完成
- 北ノ庄バイパスが完成（千代川町）
- JR並河駅前広場が完成

平成3年

- 「第1回市小学生駅伝大会」が開催
- 亀岡運動公園ジャンヂーラランドが完成
- 運動公園テニスコート夜間照明が完成
- ロマンチック・トレイン嵯峨野トロッコ列車が開業
- 天皇皇后両陛下（現・上皇上皇后両陛下）行幸啓
- 亀岡国際広場球技場が完成
- 市役所の第2・第4土曜日の閉庁スタート

平成4年

- ひまわりロマンティック迷路が開園
- オクラホマ州副知事一行が表敬訪問
- リフト付きタグシーの運行を開始
- ねんりんピック全国健康福祉祭「プレゴルフ交流大会」を開催

平成5年

- 市ブラジル姉妹都市等親善訪問団、ジャンヂーラ市を訪問
- 亀岡健康いきいきプランの策定
- 市の人口が9万人を超える
- 3カ国姉妹都市交流世界会議に参加
- 古世親水公園が建設省「手づくり郷土賞」を受賞
- 市立図書館大井分館が開館
- 住民票自動交付機を設置
- 湯の花温泉新泉源の掘削完了

平成6年

- 亀岡農村女性海外研修団をヨーロッパに派遣
- 国道372号亀岡園部バイパスが開通
- 消防緊急通信指令システムを稼働
- デイサービス事業・在宅介護支援センター事業を開始
- 図書館の貸出業務を電算化
- さくら公園・さくらホールが完成（千歳町）
- 印鑑証明書自動交付を開始
- 可燃性粗大ごみ回収を開始
- 和らぎの道が完成（千歳町）
- 市道川東線が開通
- 亀岡消防署東分署庁舎が完成（篠町）

●NTT、日本たばこ産業発足

- 男女雇用機会均等法成立
- 日航機、群馬県御巣鷹山に墜落

●チェルノブイリ原発事故

- チャールズ皇太子夫妻来日
- 東京で第12回先進国首脳会談
- 三原山が噴火

●世界最長の青函トンネル開業

- 瀬戸大橋が開通
- バブル経済
- ソウル五輪、カルガリー冬季五輪

●国鉄分割・民営化、JR発足

- 竹下内閣成立
- 利根川進博士にノーベル賞

●統一ドイツ誕生

- 日本人で初めて秋山豊寛氏が宇宙へ

●暴力団対策法施行

- 国家公務員の完全週休2日制実施
- PKO協力法案が成立
- バルセロナ五輪、アルベールビル冬季五輪

●細川連立内閣成立

- エリツィン・ロシア大統領が訪日
- サッカーW杯アジア最終予選で日本が惜敗（ドーハの悲劇）

2015-2020 平成27～令和2年 亀岡市のあゆみ

社会の動き



平成27年

- 市道中矢田篠線（上矢田工区）開通
- 市内初の義務教育学校、亀岡川東学園開校
- 高齢者運転免許証自主返納支援事業開始
- インターナショナル・セーフスクール（ISS）認証を取得
- 子ども医療費助成制度を改正、償還払いから現物給付へ
- 第7代市長に桂川孝裕氏就任
- 第1回京都亀岡ハーフマラソン大会開催

- 北陸新幹線東京-富山・金沢間が開業
- 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」が世界遺産登録決定
- 大村智氏、梶田隆章氏にノーベル賞
- ラグビーW杯イングランド大会で日本が歴史的勝利
- マイナンバーカード通知カード配布開始
- 外国人観光客「爆買い」増加



平成28年

- 市道中矢田篠線篠工区工事完了により同線が全線開通
- 「第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～後期基本計画」がスタート
- 「かめまる観光レンタサイクル」スタート
- 東別院町地域交通支援事業開始
- コンビニエンスストアでの証明書交付サービス開始
- 付け替え工事が完了した市道三宅保津小橋線、供用開始
- 第40回全国育樹祭の開催に際し、皇太子殿下（現・天皇陛下）がガレリアかめおかを訪問
- 「森のステーションかめおか」オープニングイベント開始
- 子育て世代包括支援センター「BCome」開所

- 日銀がマイナス金利を初導入
- 北海道新幹線が開業
- 熊本地震
- 米オバマ大統領、広島市を訪問
- リオデジャネイロ五輪
- 天皇陛下（現・上皇陛下）退位の意向を示唆
- 大隅良典氏にノーベル賞
- 世界でテロ頻発 邦人も犠牲に



平成29年

- 新たな市の象徴として「市の石『桜石』」「市の魚『アユモドキ』」を制定
- 「亀岡さくらまつり」初開催
- 亀岡を舞台にした「ファインダー-京都女学院物語-」作者、秋本治氏が亀岡を訪問
- 「森のステーションかめおか『匠ビレッジ 天然砥石と匠の技』」オープン
- オーストリア共和国ザンクト・ペルテン市でオーストリア空手連盟と東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプに関する協定を締結
- かめおか「セーフティドライブ・プロジェクト」、かめおか「まち・レコ」プロジェクトをスタート
- 市内運行の路線バスで敬老乗車券の使用を開始

- 九州北部豪雨
- 沖ノ島と関連遺産群が世界遺産登録決定
- トランプ米大統領就任、訪日
- カズオ・イングロ氏にノーベル賞



平成30年

- 「京都スタジアム（仮称）」起工式、工事着工
- 地域新電力会社「亀岡ふるさとエナジー株式会社」設立
- 第125回近畿市長会総会を開催
- 亀岡市議会が6月から「通年議会」を導入
- 「第34回世界連邦日本大会2018in亀岡」を開催
- 「かめおか霧のテラス」が完成
- 市道北古世西川線が全線開通
- 「亀岡手話言語及び障害者コミュニケーション条例」を施行
- 大阪北部地震発生、京都府南部で震度5
- 記録的な豪雨（西日本豪雨）により市内に被害発生
- 「KIRI CAFE」がオープン
- 「移住・定住促進施設『離れ』にのうみ」がオープン
- セーフコミュニティ再々認証、インターナショナル・セーフスクール再認証を取得
- かめおかプラスチックごみゼロ宣言

- 平昌冬季五輪
- 大阪府北部地震
- 西日本豪雨
- 日銀が金利上昇を容認
- 台風第21号が近畿地方を縦断
- 北海道胆振東部地震
- 本庶佑氏にノーベル賞



平成31年
令和元年

- 名誉市民に元亀岡市長の谷口義久氏
- 「第1回光秀ゆかりのまち亀岡俳句大賞」表彰式を開催
- 亀岡ふるさとエナジー株式会社、市内メガソーラーからの電力買い取りを開始
- 「亀岡型自然保育」、本梅保育所と東本梅保育所で開始
- 南郷公園に明智光秀公像を建立
- 平和池跡で「奇跡のアジサイ」植樹式
- 「KAMEOKA FLY BAG Project」を開催
- 市内スーパーなどでレジ袋有料化始まる
- 「亀岡市スタジアムブロードプログラム」実施、本市中学生が中国・蘇州市を訪問
- 市立小・中学校に空調を整備

- イチロー選手現役引退、日米通算4367安打
- ノートルダム大聖堂炎上
- 天皇陛下即位、「令和」の時代始まる
- ラグビーW杯日本大会開催、日本代表大躍進
- 消費税率10％に
- 台風第15号、第19号により関東地方を中心に被害
- 首里城火災、正殿など消失
- ローマ教皇が38年振り来日
- 吉野彰氏にノーベル賞



令和2年

- サンガスタジアム by KYOCERA（府立京都スタジアム）が竣工
- 明智光秀を主人公とした大河ドラマ「麒麟がくる」放送開始
- 「麒麟がくる 京都亀岡大河ドラマ館」サンガスタジアム by KYOCERA内にオープン
- 「かめおか霧の芸術祭 素顔のかめおか」を開催
- 市交流会館内にスポーツクライミング施設「カメロックス」がオープン
- 市内在住の荒賀龍太郎選手、東京2020オリンピック出場決定
- 亀岡市へのふるさと納税、10億円を超える
- 「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」成立
- 本梅保育所と東本梅保育所が「認定こども園」に
- 亀岡駅北広場「かめきたサンガ広場」誕生
- 市税などのスマートフォンでの支払い開始
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により市民生活と地域経済に大きな影響



2005-2014 平成17～26年

亀岡市のあゆみ

社会の動き



平成17年

- JR千代川駅前広場が完成
- 亀岡市地域福祉計画、児童育成計画、次世代育成支援行動計画、新亀岡市障害者基本計画を策定
- 「ふるさとバス」運行を開始
- 市立図書館西部分室が開室（本梅町）
- 子どもの安全確保に向けた「学校安全メールシステム」の運用を開始
- 新市民憲章を告示
- 市制50周年記念フェスティバルを開催

- 中部国際空港開港
- 愛知県で「愛・地球博」開催
- JR福知山線脱線事故
- 鳥インフルエンザ、東南アジアや中国で猛威
- 全国でアスベスト禍



平成18年

- 保津川開削400周年
- 防災情報亀岡メールの運用を開始
- 旧亀岡駅舎さよならセレモニー
- 名誉市民に京都大学名誉教授の上田正昭氏

- 郵政民営化、日本郵政株式会社発足
- トリノ冬季五輪
- ゼロ金利政策解除
- 安倍内閣成立

平成19年

- 市立自動車学校を開校
- 新最終処分場「エコトピア亀岡」が完成
- 亀岡市洪水ハザードマップが完成

- 国民投票法が成立
- 新潟県中越沖地震
- 福田内閣成立
- 米国でサブプライム問題

平成20年

- 日本初のセーフコミュニティ認証を取得
- JR亀岡駅新駅舎が完成
- かめおか・ふるさと検定がスタート
- 亀岡市生涯学習市民大学20周年
- 市内全小中学校にAED（自動体外式除細動器）を設置
- 「亀岡市・ジャンヂーラ市平和友好親善訪問団」がブラジルを訪問
- 「京都・亀岡ふるさと力向上寄付金」を創設

- 岩手・宮城内陸地震
- 北京五輪
- 麻生内閣成立
- リーマン・ショック起こる
- 南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏、下村脩氏にノーベル賞

平成21年

- 佐伯灯籠が国の重要無形民俗文化財に指定
- 嶺山パイプスが完成
- 亀岡市地震ハザードマップが完成
- 「かめおか市民活動推進センター」が市民活動の拠点施設として開設
- 「丹波亀山謎解き宝探しゲーム」を城下町で開催

- 新型インフルエンザ、WHOが国際緊急事態を宣言
- 裁判員裁判始まる
- 鳩山内閣成立

平成22年

- 丹波亀山城築城400年
- JR嵯峨野全線複線化工事が完了、新ダイヤがスタート
- 市道保津宇津根橋線が完成
- 第22次亀岡市民公式親善訪中団が蘇州市を訪問
- 「世界連邦・非核平和都市」を宣言
- 国営亀岡農地再編整備事業のうち面整備工事が完了
- 第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～を議決

- バンクーバー冬季五輪
- 菅内閣成立
- 小惑星探査機「はやぶさ」7年振りに地球に帰還
- 鈴木章氏・根岸英一氏にノーベル賞
- 東北新幹線全線開通

平成23年

- 「保津川花回廊」植樹祭
- 東日本大震災の被災地に亀岡市から給水支援
- 亀岡市新防災通信システムが完成
- 西川遊歩道（篠町）が開通
- 平和池災害から60年、亀岡地区東部・篠町柏原地区で慰霊祭
- 地球環境子ども村「亀岡生き物大学」開校
- 被爆ピアノ平和コンサートを開催
- 第26回国民文化祭、京都2011「亀岡祭～宵宮の再現～」民俗芸能の祭典」開催

- 九州新幹線全線開通
- 東日本大震災、原発事故で甚大被害
- 計画停電を実施
- 地上アナログ放送完全終了、地上デジタル放送へ移行
- なでしこジャパン、サッカーW杯優勝
- 野田内閣成立

平成24年

- 亀岡の寒天製造用具517点が国の有形民俗文化財に登録
- 河原林町国営農地再編整備事業が竣工
- 保津川かわまちづくり（千本松・桜堤を植樹）
- 篠町で発生した車両突入事故を受け、緊急の交通安全対策協議会を開催し、事故現場付近の早急な再発防止策を審議
- 「第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議」を開催
- 亀岡市災害ボランティアセンターを設立
- 明智かめまるナンバープレートの交付を開始
- 京都府が計画する「大規模スポーツ施設」の建設地が亀岡市に決定

- 東京スカイツリー開業
- ロンドン五輪
- 山中伸弥氏にノーベル賞
- 安倍内閣成立

平成25年

- セーフコミュニティ再認証を取得
- 京都学園大学（現・京都先端科学大学）と「第4次亀岡市総合計画～夢ビジョン～シンボルプロジェクトの推進に関する協定書」を締結
- 京都縦貫自動車道の沓掛IC～大山崎JCT・IC間が開通し、名神高速道路に接続
- 亀岡市、京都サンガF.C.、亀岡商工会議所、京都学園大学（現・京都先端科学大学）で「京都かめおか元気アップ協定」を締結
- 亀岡市立人権福祉センターが竣工
- 台風18号の接近により京都府全域に大雨特別警報発令、市内で甚大な被害
- セーフコミュニティ活動が第8回マニフェスト大賞「優秀復興支援・防災対策賞」を受賞

- 日本、TPP交渉に参加
- 日銀が金融緩和へ政策転換
- 富士山が世界遺産に登録決定
- 「和食」が無形文化遺産に登録決定

平成26年

- 「第32回亀岡元旦ロードレース～ファイナル～」を開催
- 主要地方道亀岡園部線（保津北工区・保津南工区）の供用を開始
- 平成25年度地域づくり総務大臣表彰で亀岡市が地方自治体表彰を受賞
- 畑野町水道未普及地域解消事業が完了
- 亀岡幼稚園と第2亀岡幼稚園が統合、亀岡市立幼稚園がスタート
- 京都サンガF.C.とホームタウン協定を締結
- 「保津川さくら広場」が竣工
- 姉妹都市盟約締結50周年にあたり市民訪問団がオーストリアのクニツテルフェルト市を訪問
- プラスチック製容器包装とペットボトルの分別収集を開始

- ソチ冬季五輪
- 消費税率が8％に
- 広島県で土砂災害
- 御嶽山が噴火
- 富岡製塩場が世界遺産に登録決定
- 赤崎勇氏、天野浩氏、中村修二氏にノーベル賞





現在を感じ、 絆を深める文化

現在を感じ、

現在に感じる思いが、未来を形づくる糧となるように。
絆を結び、そして文化として広がっていきます。
日常に息づく暮らしの中で生まれる心のぬくもりが、
まちを愛し、ひとを愛し、ふるさとを思う。

1月～3月

亀岡市成人式
新成人・新年を祝う会
亀岡市民駅伝競走大会
保津川の日
保津川下り「保津舟の日」
亀山城下ひなまつりイベント

4月～6月

亀岡さくらウィーク・亀岡さくらまつり
花と緑のフェスティバル
亀岡光秀まつり・かめまるフェスタ
ガレリアばらフェスタ
オーブンガーデンかめおか
BCome+ フェスタ
亀岡市花展示会
公民館サークルまつり
ゆう・あいフォーラム
きぎょうの里開園
亀岡平和祭・市民スポーツ大会開幕

7月～9月

丹波亀山城下町宝さがしゲームスタート
亀岡平和祭 亀岡大踊り大会
亀岡平和祭 平和祈念式典
亀岡平和祭 保津川市民花火大会
下水道フェスティバル
京都丹波／亀岡夢コスモス園開園

10月～12月

アグリフェスタ
亀岡市菊花展示会
亀岡市民文化祭
ヒューマンフェスタ
京都丹波夢ナリエ
京都亀岡ハーフマラソン大会

※各イベント・行事の時期や開催の有無などについては
変更になることがあります。

古より受け継がれる 伝統と文化

1月

3日 福給会(穴太寺)
10日 金比羅神社新年祭(金比羅神社)
15日 布袋祭(養仙寺) 粥占寺(出雲大神宮)
19日 乾夜神祭(篠村八幡宮)
厄神祭(八幡神社各社)
25日 初天神祭(天満宮各社)

2月

3日 節分祭(市内各神社)
19日 厄神祭(拝田八幡宮他各八幡宮社)

3月

15日 おしゃかさん(念仏寺)

4月

15日 酒吞童子(鬼)の首塚大明神例祭(首塚大明神)
18日 鎮花祭(出雲大神宮)
24日 鎮火祭(愛宕神社)

5月

3日 がん封じ祭り(穂田野神社)

6月

第1日曜日 信長公忌(聖隣寺)
毘沙門天祭(聖隣寺)
14日 光秀公忌(谷性寺)

7月

7日 七福祭(永徳寺)
第1日曜日 犬甘野の御田祭(松尾神社)
14日 祇園祭・湯立祭(西山神社)

8月

14日 佐伯灯籠(穂田野神社、御霊神社、河阿神社、若宮神社)
19日 花祭り、立花行事(大井神社)
23日 六地藏めぐり(曾我部町)

9月

1日 八朔祭(安行山稲荷宮、愛宕神社ほか)
6日 湯立祭(岩城神社、大内神社ほか)
24日 石田梅岩墓前祭(梅岩記念公園)

10月

20日 保津の火まつり(請田神社、保津八幡宮)
23～25日 亀岡祭(丹波亀山城城下町一帯、欽山神社ほか)

11月

第1日曜日 ハツ岩権現大祭(嶺松寺)
下旬 稲荷大明神大祭(苗秀寺)

12月

上旬～下旬 お火焚祭(市内各神社)



先人たちの暮らしの中で感じた思いは、
時を重ね、時代を超えて、今に息づいています。
込められた幾多の願いは、
祭りの静と動、エネルギーとなって
心から心へと伝わっていきます。
そして私たちも夢を、感動を、伝えたい心を
未来に委ね、歴史と文化を受け継いでいくのです。



交通安全都市宣言	福祉都市宣言	暴力追放都市宣言
昭和50年9月23日制定	昭和57年3月29日制定	昭和59年12月20日制定

生涯学習都市宣言	昭和63年3月30日制定
わたくたち亀岡市民は、人間の尊重と地域社会の一員としての自覚のもと、 常に、いま、何をなすべきかを問いかけ合いながら、生涯にわたり学び続け、 自己を高め、連帯の絆を強めることにより、 生きる喜びと明るく豊かなまちに住む喜びの持てる亀岡を目指し、 ここに亀岡市を「生涯学習都市」とすることを宣言する。	

地球環境子ども村宣言	平成14年3月28日制定
未来を拓くのは 子どもたち 緑あふれる豊かな自然を体験する 子どもたち 連綿たる亀岡の歴史の営みに育まれる 子どもたち ふるさとを愛し世界にはばたく 亀岡の子どもたち	
私たち亀岡市民は 子どもたちに学びと育ちの場を提供し続けよう 私たち亀岡市民は 地球環境を体感できる子どもたちを育もう 私たち亀岡市民は 子どもたちとともに環境学習・体験学習を深めよう そして すべての市民が世界の人々と手を携えて 永遠に地球の恵みをわかちあうため ここに 亀岡市全域を「地球環境子ども村」と宣言する。	

世界連邦・非核平和都市宣言	平成22年8月7日制定
世界の恒久平和は、人類共通の切なる願いです。 核兵器は、その願いを妨げる脅威でしかありません。 私たちが求めるのは、あらゆるいのちの営みを一瞬のうちに奪ってしまう核兵器の廃絶であり、その存在を許さない世界の実現です。 私たちは、世界連邦の意志を受け継ぎ、「非核三原則」の堅持を訴え続けます。 それらは、人と人との絆を深め、いのちの尊厳を自覚して。自然と人間が共生する世界を築いていくための普遍の原理であるからです。 私たちは、ふるさとを愛し、人を愛し、戦争のない平和で美しい地球を子どもたちに伝えるため、願いを同じくする世界の人びとと共に前進することを誓い、 ここに、亀岡市を「世界連邦・非核平和都市」とすることを宣言します。	

姉妹・友好交流都市

クニッテルフェルト市（オーストリア共和国シュタイヤーマルク州）	スティルウォーター市（アメリカ合衆国オクラホマ州）
昭和39年4月14日 姉妹都市盟約締結	昭和60年11月3日 姉妹都市盟約締結
 周囲を1,500メートルから2,400メートルの連峰に囲まれた、海拔645メートルの盆地です。人口は約1万2,000人のまちですが、豊かな自然に恵まれた美しいたずまいを見せており、産業は自然を生かした観光を中心に、農業(畜産、乳製品)や工業(鉄道車両)などが盛んです。	 州都オクラホマシティーの北東約100キロメートルに位置し、市内にはオクラホマ州立大学(OSU)があります。人口約5万人のうち、OSUの大学生と大学関係者が約半分という学園都市で、緑と湖の美しいまちはアカデミックな雰囲気の中に包まれ、素晴らしい環境を整えています。

ジャンヂーラ市（ブラジル連邦共和国サンパウロ州）	蘇州市（中華人民共和国）
昭和60年11月3日 姉妹都市盟約締結	平成8年12月31日 友好交流都市盟約締結
 州都サンパウロ市の北西約32キロメートルに位置し、海拔740メートルと高い位置にあって、丘陵と坂の多いまちで、気候は四季の変化に富み、日本の季節とはちょうど逆になります。人口は約12万人で日系人も多く、近年はサンパウロ市のベッドタウンとして人口が増えています。	 上海市から西へ約90キロメートルに位置する蘇州市は太湖に近く、運河がまちの内外を網の目のように巡り、小舟がアーチ型の橋をくぐりながら行き交います。古跡も多く、中国有数の景勝地として知られており、約2,500年前の春秋時代には、呉の首都がおかれ、歴史の都としても有名です。

市章	昭和30年4月6日制定
	＜亀岡市マークの示す意味＞ カ・メ・か・め、KA、日本の名所保津峡の頭文字 H 図案化した仮名文字「タ」の交叉によって田園都市の発展と、逆より見る「16」の白抜象形文字に全国稀有の16カ町村大合併を表わし、力強い四隅の踏張りに市民の団結と四方に伸びる大躍進を表現しています。

市 の 象 徴

市の花「つつじ」

昭和40年5月3日制定

平和を愛し、美しいまちづくりをすることを念願し、市を象徴するにふさわしい花として「つつじ」を決定しています。つつじは市内に多く自生し、とくに保津峡には「岩つつじ」が咲き乱れ、保津川下りやトロッコ列車の観光に訪れた人たちの目を楽しませます。

市の木「さくら」

昭和55年11月3日制定

自然を愛し、将来に向かって豊かな住みよい都市づくりを念願し、緑と自然を保持した環境のもとに市民生活をさらに豊かな楽しいものにするために、市を象徴するにふさわしい木として「桜」を決定しています。市内では七谷川や亀岡運動公園、平和台公園が桜の名所です

市の魚「アユモドキ」

平成29年4月1日制定

国の天然記念物にも指定されている稀少な魚で、古くから亀岡市に生息しています。環境省レッドデータブックの絶滅危惧種に指定されており、亀岡市では、保護・増殖に向けた活動を積極的に展開しています。人とのかわり合いの中で生きてきた魚として、「市の魚」に制定しています。

市の石「桜石」

平成29年4月1日制定

湯の花の里に「桜石」と呼ばれる不思議な柱状の石があります。どこを切っても桜の花のような紋様が浮かび上がる「董青石仮晶（桜石）」は、国の天然記念物に指定されています。地殻変動が作り上げた神秘的な紋様は、太古から続く地球の鼓動をものがたり、人々を魅了し続け、伝説も残っています。

亀岡市民憲章 平成17年11月3日告示 京都から西へ、老ノ坂を越えれば朝霧の晴れ間に亀岡盆地が広がる。豊潤な水脈は、田園や里山に多様な美りをもたらし、舟運を支えてきた保津川は、いまも溪流の舟下りで賑わっている。 古来、人びとは自然との調和やお互いの絆、家族のぬくもりを大切にしながら暮らしてきた。そこには石門心学が生まれ、田山忠挙の芸術が育まれた。城下町のたたずまいを色濃くとどめ、華麗な山鉦が巡り、地域に根ざした芸能が息づいている。そんな亀岡に生きるわたくしは、市民は、こうした平安の営みを未来につなぐことを願って、市民憲章を掲げます。	一 水と緑の恵みを大切にし、豊かな環境を次代に引き継ぐまちをつくります 一 いのちを尊重し、共に輝き、心の通いあう家族とまちをつくります 一 健やかな心とからだを育て、安らぎのあるまちをつくります 一 互いにまなび、高めた力を活かす生涯学習のまちをつくります 一 歴史と伝統を生かし、先人の知恵が香る文化のまちをつくります 一 世界にはばたく、豊かな感性と英知を育むまちをつくります 一 一人ひとりが主役となって、共に生き、ともに支え、平和と人権の根づくまちをつくります
---	--

名誉市民		
 故 大槻 嘉男氏 （初代市長） 明治37年5月12日～ 平成元年4月24日 （称号贈呈日 昭和55年11月3日）	 故 上田 正昭氏 （京都大学名誉教授） 昭和2年4月29日～ 平成28年3月13日 （称号贈呈日 平成18年11月3日）	 故 谷口 義久氏 （第4代市長） 昭和2年3月11日～ 平成27年4月2日 （称号贈呈日 平成31年1月1日）
昭和26年に亀岡町長に就任後、昭和30年1月1日、全国で稀に見る南桑田郡1町15カ村を大合併し、初代市長に就任。以後、昭和46年まで4期16年にわたり、亀岡市長として市政を担当。亀岡市長時代には、新市発足後の困難な諸条件を英知と勇断をもって克服し、永い歴史と伝統、豊かな自然を守りながら「緑園文化都市」としての今日の躍進への礎を築かれた。 郷土愛にみなぎる氏の業績の偉大さは衆目の一致するところであり、昭和55年11月に初の亀岡市名誉市民の称号を受ける。 他に内閣総理大臣表彰、亀岡市自治功労者表彰、オーストリア共和国「栄誉大章」、勲四等旭日小綬章受章、従五位を叙位	文化史学における歴史研究、中でも古代史研究の第一人者であり、学術面における卓越した博識を亀岡市政の進展に惜しみなく発揮いただいた。昭和63年3月、人間尊重を謳った関西初となる生涯学習都市宣言への導き、その後の学習機会の提供に大きく尽力。また、「新修亀岡市史」の編さん監修者として尽力し全8巻を刊行。 世界的に名を馳せられる功績と、郷土愛にあふれた市政の良きアドバイザー、学術顧問として活躍いただいた人柄は亀岡市民が等しく尊敬するところであり、平成18年11月に名誉市民の称号を受ける。 他に文部大臣社会教育功労者表彰、南方熊楠賞、京都府文化賞特別功労賞、勲二等瑞宝章受章、従四位を叙位	昭和54年1月から平成11年1月まで5期20年の長きにわたり、亀岡市長として市政を担当。常にグローバルな視野に立って国際緑園文化都市、生涯学習都市としての亀岡市の今日の躍進と活力の礎を築かれた。 特に高度経済成長期とともに速まる都市化に伴い、上下水道、基幹交通網、教育施設整備等々持ち前の卓越した知勇兼備たる手腕により、都市機能の基盤整備を進め、市民福祉の向上に著しく貢献された功績により、平成31年1月に亀岡市名誉市民の称号を受ける。 他に亀岡市自治功労者表彰、亀岡市制50周年記念特別功労者表彰、勲四等旭日小綬章受章、従四位を叙位